

令和4年度

# 地域と共にある学校づくり 実践事例集

— 東信地区 —



長野県教育委員会事務局  
文化財・生涯学習課

東信教育事務所

# 目 次

小 学 校		中 学 校
<川上村>		<立科町>
○ 川上第一小 …… 1		○ 立科小 …… 37
○ 川上第二小 …… 2		<東御市>
<南牧村>		○ 田中小 …… 38
○ 南牧南小 …… 3		○ 祢津小 …… 39
○ 南牧北小 …… 4		○ 和小 …… 40
<小海町>		○ 滋野小 …… 41
○ 小海小 …… 5		○ 北御牧小 …… 42
<南相木村>		<長和町>
○ 南相木小 …… 6		○ 長門小 …… 43
<北相木村>		○ 和田小 …… 44
○ 北相木小 …… 7		<青木村>
<佐久穂町>		○ 青木小 …… 45
○ 佐久穂小 …… 8		<上田市>
<佐久市>		○ 浦里小 …… 46
○ 青沼小 …… 9		○ 川西小 …… 47
○ 田口小 …… 10		○ 城下小 …… 48
○ 切原小 …… 11		○ 南小 …… 49
○ 臼田小 …… 12		○ 川辺小 …… 50
○ 野沢小 …… 13		○ 中塩田小 …… 51
○ 泉小 …… 14		○ 東塩田小 …… 52
○ 岸野小 …… 15		○ 塩田西小 …… 53
○ 中込小 …… 16		○ 西小 …… 54
○ 佐久城山小 …… 17		○ 清明小 …… 55
○ 東小 …… 18		○ 北小 …… 56
○ 平根小 …… 19		○ 塩尻小 …… 57
○ 岩村田小 …… 20		○ 東小 …… 58
○ 佐久平浅間小 …… 21		○ 神科小 …… 59
○ 高瀬小 …… 22		○ 豊殿小 …… 60
○ 中佐都小 …… 23		○ 神川小 …… 61
○ 浅科小 …… 24		○ 長小 …… 62
○ 望月小 …… 25		○ 傍陽小 …… 63
		○ 本原小 …… 64
<小諸市>		○ 菅平小 …… 65
○ 東小 …… 26		○ 丸子中央小 …… 66
○ 美南ガ丘小 …… 27		○ 西内小 …… 67
○ 野岸小 …… 28		○ 丸子北小 …… 68
○ 坂の上小 …… 29		○ 塩川小 …… 69
○ 水明小 …… 30		○ 武石小 …… 70
○ 千曲小 …… 31		
<軽井沢町>		<b>特別支援学校</b>
○ 軽井沢東部小 …… 32		○ 小諸養護 …… 102
○ 軽井沢中部小 …… 33		○ 上田養護 …… 103
○ 軽井沢西部小 …… 34		
<御代田町>		<b>中 学 校</b>
○ 御代田南小 …… 35		<川上村>
○ 御代田北小 …… 36		○ 川上中 …… 71
		<南牧村>
		○ 南牧中 …… 72
		<小海町北相木村南相木村中学校組合>
		○ 小海中 …… 73

<b>学校の概要</b>		学校名	川上村 立 川上第一小 学校	学校長	神田 博幸	児童生徒数	114 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表						
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の 学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいないか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人					
			地域住民				地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者) 人					
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	4月19日(木) 2月7日(月)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択) 地域住民						
				具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)								
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	学校教育目標「しやくなげ」 「し」、自分から学ぶ子 「や」、約束を守る子 「く」、苦勞をいとわない子 「な」、仲良く助け合う子 「げ」、源流の里を愛する子											
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	①自ら求め、見通しをもって学ぶ子ども ②粘り強く取り組み、必要な力を育む子ども ③学びを生かし、友や地域と温かくかかわる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの 人数						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○	4		ボランティア 登録者人数	40 人					
						参加者延べ 人数	30 人					
地域学校 協働活動の 概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習		
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・ 地域の協働した 取組例							茶道クラブ(10月17日)		5年生キャンプ自然体験教室(7月7日)		3年生レタス栽培(6月1日)
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
茶道クラブ 地域のボランティアの方2名を講師として招き、5月～10月 計8回の茶道クラブを行った。4年生から6年生までの児童7名が参加した。毎回1時間活動を行い、茶器や器は本物を用いて、基本的な茶道の作法や、茶のたて方、茶菓子のいただき方を体験し学ぶことができた。												

学校の概要	学校名	川上村 立 川上第二小 学校	学校長	佐々木 哲也	児童生徒数	67 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
	市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
	地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	源流っ子応援隊運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入						
	民生児童委員 ボランティア代表 課外活動保護者会代表			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人				
					地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人				
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	4月22日 11月1日 3月3日	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	その他				
運営委員会や学校運営協議会を学校評議員会と兼ねている				具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)	元公民館長					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標	「心豊かな子 考える子 やりぬく子」○心豊かな子…思いやりとあいさつで笑顔いっぱい ○考える子…互いの考えを伝え合い、聞き合いながら考えを深める ○やりぬく子…姿勢と心を整え、粘り強く取り組む									
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	「思いやり・深め合い・よい姿勢」ができる子どもの育成									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○								
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	30 人				
					参加者延べ人数	20 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	6年木育(10月28日)		ふるさと源流学習(10月22日)		レタスの収穫(9月2日)					
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○5学年 総合的な学習の時間 「レタスを栽培して、(新潟県小千谷市立)南小学校に届けよう」 ・昨年度から新潟県小千谷市立南小学校とオンラインや学校訪問などの交流を続けてきた5年生。 ・南小学校が、米栽培をして収穫した米を送ってくれるお礼に、自分たちは川上村の名産レタスを栽培して送ろうということになった。 ・クラスの保護者がほぼ農家であるが、実際に自分で栽培をしたことがない子どもたち。そこで、保護者の方を講師に招き、育苗、定植、途中の世話、収穫までの過程を教えていただきながら、丹精込めてレタス栽培に取り組んだ。 ・自分たちが栽培したものを食べてもらうという、相手意識をはぐくむ活動になった。 ・普段見慣れているレタス栽培には、様々な苦労があるということや、それに取り組む保護者の仕事への熱意を感じることができた。 ・名産であるレタス栽培を通して、川上村への愛着を感じることができた活動になった。										

<b>学校の概要</b>		学校名	南牧村 立 南牧南小 学校	学校長	栗林 幸治	児童生徒数	71 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の 学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	南小の子どもを語る会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学校支援ボランティア代表		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
					地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人	
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	5月12日(木) 2月3日(金)	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		
						教頭		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく							
地域と共有され た育てたい子ど もの姿	先人の切り開いた郷土を守り育てる、たくましい心豊かな子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について		○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について		○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			4	協働活動に参加したボランティアの人数		23 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				ボランティア登録者人数		186 人	
						参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児			
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		読み聞かせ(年間)		花壇等の整備(5月～11月)		書初め指導(12月)		
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
新型コロナウイルス感染症対策をしながら、4月から読み聞かせボランティアの皆様による読み聞かせを開始した。毎週月曜日の朝15分間、各教室で読み聞かせをしていただいている。昨年度に引き続き、感染対策として密を避けるために児童は自分の座席で読み聞かせを聞いている。電子黒板用モニターに絵本の挿絵を映し出して、遠くの座席の児童も見えるように工夫している。読み聞かせのあと、校長室でボランティアの方との懇談の時間を不定期に設けた。読み聞かせの時の児童の反応など、学級の特徴がうかがえる姿を教えてください。現在13名の地域の方に読み聞かせボランティアとして登録していただいている。代表の方が学期ごとに当番(分担)表を作成して学校に届け、それを印刷してボランティアの方と職員に配付している。読み聞かせをしていた間に、職員は朝会と1週間の連絡・打ち合わせを行うことができ、子どもたちも職員も落ち着いた気持ちで1週間のスタートを切ることができる。								

<b>学校の概要</b>		学校名	南牧村 立 南牧北小 学校	学校長	藤倉 佳子	児童生徒数	50 名																		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある																			
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表																			
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○																			
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																			
名称		北小の子どもを考える会(北小応援委員会)		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)																			
				学校評議員 民生児童委員協議会正副会長 駐在所長		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人																			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月24日(火) 第1回 1月27日(金) 第2回																			
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) その他																			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 元村教育委員会次長																			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																									
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく 令和4年度重点「自立する子ども」「自分から学ぶ」「共に生きる」「自分を育む」																							
地域と共有された育てたい子どもの姿		○小規模校の良さを生かし、心も身体も健やかに、たくましさと思いやりをもち、南牧村を愛する人間に成長して欲しい。 ○自分から進んで物事に取り組める主体性をもった自立した人間に成長して欲しい。																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況																					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○																			
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○																			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○																			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		28 人																			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		1060 人																			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間		○			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○				○	
																									
		芝校庭草取り(6月21日)				わくわくスクール(9月～年5回)																			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																									
○ クラブ活動を拡大し、全校がグループに分かれて取り組む「わくわくスクール」は、地域の方に講師をお願いし、実施してきている。ここ数年、コロナウイルス感染対策で、児童からの希望があっても「料理」は実施できていないが、本年度も「理科実験」「絵手紙」「卓球」「ニュースポーツ」「小物作り」「空に飛ばそう(模型飛行機)」に地域の方を講師にお願いすることができた。																									
○ 子どもたちはとても楽しみにしていて、普段学校の授業の中では取り組めない内容を体験させてもらっている。講師の中には、普段から学校支援ボランティアをしてくださっている方も多く、子どもたちにとって、顔なじみとなる機会にもなっている。																									

<b>学校の概要</b>		学校名	小海町 立 小海小 学校	学校長	清水 克則	児童生徒数	153 名						
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	小海町学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人	
				民生委員(主任児童委員) 学校支援ボランティア 八十二銀行小海支店長				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	・7月19日(火) ・11月18日(金) ・2月23日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援ボランティア					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標	かしこく きよく たくましく 自分らしさを発揮し、自ら問い自ら学ぶ子どもたちの育成をめざして ～ヒト・コト・モノを見つめて、つながり、表現する～												
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の自然や人などに関わり、自ら問いを見出し学びに没頭する姿 ・地域に生きる人とつながり学ぶ姿 ・地域の自然、歴史、文化、産業などに学ぶ姿												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況									
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		参加者延べ人数		20 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習					
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○			
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
		くらかけ豆の栽培(通年で4~5回)		学習ボランティア「読みの指導」「算数」(通年)		登下校の見守り活動(通年)							
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>													
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
・2年生が、小海町の特産品「くらかけ豆」の栽培をするなかで、くらかけ豆メイト(普及をすすめる団体)の方を講師に迎え、学習をしている。講師の方を「大豆のお師匠様」と親しみを込めて呼びながら、畝の作り方、収穫のタイミング、計量の仕方、おいしい食べ方を教えてもらったり、考えたりしてきた。収穫した「くらかけ豆」は、サイコロ状にカットされたにんじん、大根、チーズと和え、サラダにして全校でいただいた。これらの活動を通して、町の特産品に詳しくなることはもちろん、地域の方と共に活動する良さや楽しさを感じることができた。													

<b>学校の概要</b>		学校名	南相木村 立 南相木小 学校		学校長	末石 円		児童生徒数	42 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		南相木小学校学校運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学習支援ボランティアや農業ボランティア等、各種ボランティアの代表者		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月24日、1月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教育長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、伝え合い、学ぶ楽しさを味わう子ども</li> <li>・自他共に認め合い、気持ち良い生活をつくる子ども</li> <li>・自らの目標に向かって、心と体を鍛える子ども</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 37 人		参加者延べ人数 104 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		農業体験活動(5月18日)		プール清掃(6月4日)								読み聞かせ(5/16など月1回程度)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>今年度、JA女性部、更生保護女性会、ボランティアの会、老人クラブ連合会の方々と共に農業体験活動に取り組んだ。5月、校舎前の栽培用地や学校近くに借りている畑に、サツマイモ、メロン、スイカ、大豆、小麦、ミニトマト等、数々の作物の苗を植えた。皆様が集まってくださり、子どもたちに対して積極的かつ丁寧な指導をしてくださった。</p> <p>5・6年生は、稲作ボランティアの方々と米作りの活動を実施した。小規模校ゆえに、子どもたちと職員だけの少人数の作業では育てる作物の数も種類もかなり限られたものになりがちであるところをボランティアの皆様の支援により活動の幅を広げることができた。新型コロナウイルス感染症予防のため、収穫祭は実施しなかったが、収穫したものを子どもたちが家庭に持ち帰ったり、学級でいただいたりして、栽培活動の楽しさを味わう活動ができた。</p> <p>例年実施している「ふるさと体験の日」では、各学年の生活科や総合的な学習と絡めた内容に合わせて、地域の方々が講師をしてくださる。子どもたちはふるさとについて探究的に学び、ふるさとへの愛着を深めることができています。</p>													

<b>学校の概要</b>		学校名	北相木村 立 北相木小 学校		学校長	田中 武		児童生徒数	57 名												
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある															
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)															
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある															
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある															
名称		北相木小学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人											
		村議会代表 山村留学センター主任 民生児童委員会会長 主任児童委員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人											
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4月21日(木) 10月13日(木) 2月16日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民											
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		ボランティア代表													
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																					
学校教育目標		人や自然に愛される子 自ら考え学ぶ子 苦さに耐える心と体をもつ子																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		『人／もの／こと』と本気がかかわり、見たこと・聞いたこと・したこと・感じたことの関係性をつなぎながら考え・試行し、見方・考え方・やり方を広げ・深め・発信する姿。																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○													
2 学校運営への必要な支援について		○																			
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○													
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)															
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 52 人		参加者延べ人数 35 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間					
		清掃				ICT				学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児											
学校・家庭・地域の協働した取組例																					
		植栽体験(4月26日)				稲刈り(10月13日)				さんだわら作り(2月中、写真は昨年度のもの)											
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
○さんだわら作りは、地域の伝統行事「家難祓」の活動の一つ。家難祓では以下の活動を実施している。 ①家難祓の歴史、由来の学習・・・3年生で実施。全校への発表も行っている。 ②わらすき・・・さんだわら作りで使用するわらを、5・6年生がきれいにする。使用するわらは、5年生が田んぼで育てた餅米の物を使用。 ③さんだわら作り・・・お雛様を乗せる俵を、全校児童(低学年児童も)が自分でつくる。 ④雛作り・・・俵に乗せるお雛様を折り紙で折る。 ⑤ひな流し・・・3月3日に地元の川に、さんだわらに乗せたお雛様を祓い事を書いた短冊と一緒に流す。 どの活動も、地域の方に支えられて実施することができている。ひな流しは、保護者だけでなく、保育園児や地域の方々も楽しみにしている行事。今後も地域に伝わる伝統行事を、ボランティアの方にご指導いただきながら続けていきたい。																					

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久穂町 立 佐久穂小 学校		学校長	仲沢 弘一		児童生徒数	477 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	佐久穂町学校運営推進委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月31日 令和4年11月10日 令和5年3月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標	さらなる創造への挑戦 自主:自ら学び続ける子「知」 壮健:たくましく生きようとする子「体」 清明:明るく晴れやかな心をもつ子「徳」 敬愛:人を敬い、郷土を愛する子「情」												
地域と共有された育てたい子どもの姿	9年間の一貫した教育を通して、自ら課題をもち、問題解決に向けて自ら学ぼうとする姿 空のように晴れやかな心をもつ子どもの姿 心身ともに健康で様々な困難に立ち向かい、たくましく生き抜く子どもの姿 ふるさとを愛し、そこに住む人々や仲間を敬うあたたかな心情を持つ子どもの姿												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	127	人	
								参加者延べ人数		90	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児	○							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		朝の読み聞かせ活動(5月～2月:計10回)			登校時の見守り活動(4月～3月:通年)			稲作体験活動(田植え5/31)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組む、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年10回を計画している本の読み聞かせでは、今年度は現在のところ、全て計画通りに実施でき、大変有意義な時間を過ごすことができている。子どもたちは、地域の方の豊かな読み聞かせを楽しみにしており、興味の幅を大いに広げていただいている。</li> <li>・5年生の稲作学習や6年生の地層見学など専門的な指導を受ける貴重な機会となった。</li> <li>・読み聞かせをはじめ、地域の「わかし探検クラブ」の方々など、地域性の豊かな取り組みをクラブ活動(図工・スポーツ・郷土料理)などで、指導していただいた。学校職員も学ばせていただくことが多い。</li> </ul>													

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 青沼小 学校	学校長	金田 達成	児童生徒数	47 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		コミュニティスクール推進委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
				・学校支援ボランティア ・民生児童委員		地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月20日, 10月4日, 2月3日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 感じ・考え、判断し、意欲的に学び合い、行う子ども 2 友だち・学校・郷土や自然を愛し、大切にすること 3 最後までねばり強くがんばりぬく子ども 4 健康・安全に心がけ、心身をきたえる子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 23 人 参加者延べ人数 8 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児 ○	
							
		りんご学習(5月11日)		青沼共有学習会(6月4日)		入沢焼を訪ねて(10月18日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○青沼共有学習会は、昭和63年度に、地域の人々との交流、地域に伝わる文化や風習を学び郷土愛の芽を培う学習として始まった。最初の年は4、5、6年だけで、縄ない・わら細工を行い、楽しく過ごすことができたことと記されている。翌年には、作品製作、昔の遊び体験、餅つきなどを、全校150名で楽しく活動できた。そして、時代と共に、縦割り班のグループで活動したり、保護者と一緒の活動となったりしていった。内容も物作りだけでなく、異文化理解の料理教室や車いす体験などの福祉体験教室など、その時代の地域の特色を生かした取組が試行錯誤しながら続けられてきた。							
○今年度は、地域の素材を生かした「校庭の生き物探し」「フラワーアレンジメント」「木工クラフト」、地域の文化伝統「入沢焼き」「古代の道具作り」「しめ縄作り」、共生社会を大事にした「福祉体験・バラスポーツ」を地域の方が中心となって講師を務め、児童と保護者が楽しんだ。							
○親と子の関わり合いや、地域の方と親子の交流は、笑顔が絶えない活動となり、子どもたちが大きくなっていくと実感できてきた。							
○自分たちの地域を大切に思う気持ち、地域の人がつながって暮らしていくことの大切さなど、座学では学べないことをたくさん学ぶことができた。そして、いろいろな人と関わることで、自他を尊重し大切にすることも育ってきている。							

<b>学校の概要</b>	<b>学校名</b>	佐久市 立 田口小 学校	<b>学校長</b>	井出 誠一	<b>児童生徒数</b>	231 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
<b>学校運営に必要な支援に係る協議の場</b>				<b>ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について</b>							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員	○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
<b>名称</b>	[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいますか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター	人				
	コミュニティスクール推進委員会 田口っ子応援隊					地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人				
<b>会議 開催数 (予定)</b>	3	<b>回</b>	今年度 開催日 (予定)	7月4日 11月8日 1月30日	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
					具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)	教頭					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
<b>学校教育目標</b>	明日もきたくなる 楽しい 田口小学校 ～五稜郭の輝く子どもたち～										
<b>地域と共有され た育てたい子 どもの姿</b>	地域を知り、地域の方々の思いに触れ、地域に誇りを持てる子どもたち										
<b>運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)</b>				<b>地域と協働した活動状況</b>							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○						
2	学校運営への必要な支援について	○									
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 80 人 参加者延べ人数 1,746 人						
<b>地域学校協働活動の概要</b>	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・ 地域の協働した取組例										
	りんご学習 4月27日		クラブ活動 年7回		米づくり 年間						
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・5学年の総合的な学習の時間の米づくり(代掻き・田植え・稲刈り・脱穀)を学校で借りている田んぼで年間を通して行っている。JAみなみ北部営農センターの方、地域ボランティアの方々から指導を受けながら活動をしている。作業中には子どもたちの疑問に答えて下さったり、教員だけでは難しい水の管理や肥料などを受けて下さったりした。また、地域ボランティアの方々には農業に従事している方々なので、地域ボランティアの方々から機械化された農業と昔の農業について学んだり、稲刈りの時は落ち穂を拾いながら米一粒を大切にすることを教えていただき、収穫の喜びを一緒に味わったりすることができた。子どもたちは人とのつながりを感じ感謝の気持ちに表している。</p> <p>・クラブ活動は「囲碁将棋クラブ」「家庭科クラブ」「生け花・お抹茶クラブ」6名の地域ボランティアの方々にご指導をいただいた。ボランティアの方々には長い方で7年目を迎えている。子どもたちも慣れていて、学校の授業とは違った趣でお話を聞いたり、和やかに活動をしていただいていた。「多くの事を先生方から学びました」と最後のお礼の手紙に記入していた。</p>											

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 切原小 学校			学校長	金山 賢		児童生徒数	90 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		切原小コミュニティスクール				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		・主任児童委員		・元学校評議員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					
		・民生児童委員代表		・元PTA会長									
		・安全協会支部長		・元学校長									
		・防犯協会女性部長											
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月12日(木) 11月1日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		明るく 正しく 仲良く											
地域と共有された育てたい子どもの姿		(1) ふるさと切原を誇れる子ども				(2) 多様な他者とコミュニケーションがとれる子ども							
		(3) 自分自身を価値ある存在として捉えることができる子ども				(4) 習得した知識を活用できる子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人		参加者延べ人数 29 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		学習支援(田んぼ学習)(6月～11月)				学習支援(りんご学習)(6月～11月)				読み聞かせ(すかんぼの会)(7月～3月)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>													
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
読書教育の充実を図るために、読み聞かせボランティアの方々(すかんぼの会)による読み聞かせが、毎月1回、朝の活動の時間(20分間)に実施されている(新型コロナウイルス対策のため4～6月は中止)。すかんぼの会の皆様のご尽力もあって、読み聞かせの輪が広がり、読み聞かせに来てくださる方々は保護者まで広がっている。会の皆さんは、学年に応じて本を選び、子どもたち一人一人の姿を確かめながら、表情豊かに本を読んでくださり、子どもたちはお話の世界に吸い込まれている。『すかんぼの会』の方々のおかげもあって、子どもたちのお話を聞く素地力(聞く態度、聞く力等)は向上しており、子どもたちはお話の言葉を頭の中で十分に想像させ、本の面白さを感じ取っている。													

学校の概要		学校名	佐久市 立 白田小 学校		学校長	村田 忠久		児童生徒数	235 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の 学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		白田小CS運営委員会		【その他の委員】※具体的な役職名を記入 地域住民(学校評議員代表、白田会代表) ボランティア代表、PTA代表				学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 人 地域学校協働活動 推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者) 人			
会議 開催数 (予定)		2 回		今年度 開催日 (予定)		5月27日、2月16日		中心のコーディネーター の立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		教頭			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		一人一人が大地の星に へかしの木のように根をはって までしこの花のようにほほえんで～											
地域と共有され た育てたい子ど もの姿		○人間性豊かな子 ○確かな学力を身につける子 ○白田地区に育ったことに自身と誇りを持つ子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの 人数				ボランティア 登録者人数 30 人 参加者延べ 人数 32 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域 学校 協働 活動 の 概 要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援 ○		コロナウィルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	
		土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動 ○		子ども食堂(こども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域 の協働した取 組例													
		3年生 実験農場での農業体験(6月22日他)				5年生 米作り(6月7日他)				閉校記念式典での学習発表(11月5日)			
		<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<b>「閉校記念式典での学習発表」</b> ・11月5日(土)に、来賓76名のご臨席を賜り、閉校記念式典を挙行了。児童は学年毎に、生活科や総合的な学習の時間の学びを、地域の皆様や白田小学校への感謝の気持ちと共に発表した。 ・5年生は、3年生の時に明治5年の本校開校時に仮校舎として使用した相沢寺に伝わる仏面に触れ、そのいわれや種類等について相沢寺管理委員会や地域の皆様から学ぶことを通して、地域の歴史や文化に深く触れることができた。 ・3年間にわたる相沢寺の学習を通して、地域の方に感謝する気持ちや、白田を大切に思う気持ちが育まれてきた。													

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 野沢小 学校	校長	小林 勉	児童生徒数	532 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		公民館代表		○		○				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○				
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○				
野沢小コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		野沢小学校応援団 民生児童委員 見守り隊		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	野沢小コミュニティスクール運営委員会		野沢小学校応援団 民生児童委員 見守り隊		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が <b>学校職員以外</b> にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	8	回	今年度開催日(予定)	5/25 6/24 7/19 9/28 10/19 11/24 1/25 2/22	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標	やさしく かしく たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりのある優しい子</li> <li>・気づき考えるかっこいい子</li> <li>・粘り強くやりぬくたくましい子</li> </ul>									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 99 人 参加者延べ人数 17 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	遠足・登山		防災学習(避難訓練)	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児	○				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							米づくり指導 6月～10月		竹まつり 9月
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
3年生では 総合の学習として、「竹」を素材にした学習活動を進めてきた。地域にある竹林から竹を提供していただいただけでなく、職員の刈り取り作業にも地域の方に手を貸していただいた。竹を使った水鉄砲や竹トンボなどの制作では、子どもたちに作り方や遊び方などを教えていただいた。運動会では、竹を使った竹ひき合戦の種目を取り入れたり、パンプ・ダンスを披露したりすることができた。そのような活動を通して子どもたちの「竹」に対しての思いは強くなり、さらに自分たちで作れそうなものを考えたり、利用することができそうなものはないか話し合ったりなどと活動が広がってきている。										

学校の概要		学校名	佐久市 立 泉小 学校			学校長	銭谷 清子		児童生徒数	259 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	泉小学校 学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 教務主任 民生児童委員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)			5月12日【中止】、9月3日【中止】、11月18日、2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標		清く・正しく・たくましく										
地域と共有された育てたい子どもの姿		・しっかり聞いて、はっきり話す泉の子 ・進んで学び、力をのばす泉の子				・自分で考えて、行動する泉の子 ・笑顔であいさつ、すすんで学ぶ泉の子						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 41 人		参加者延べ人数 約170 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○										
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	
	人権教育		○		国際理解		○		託児		○	
												
		3年地域探検(9月14日、10月14日)				5年国際理解教育(7月28日)				行事・参観日等の託児活動		
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
3年の総合的な学習における「地域探検」では、自分たちの地域を巡り歩く中で、地域の方と触れ合いながら、それまで知らなかった地域のもの・ひと・ことふれ、自分たちの地域の良さに気づくことにつながった。写真の桜井神社に立ち寄ると、住職さんが歓迎して中に案内してくださり、天井の絵や仏像にまつわる話を語ったり、昔から大切にされているものを見せていただいたりした。そうした住職さんや奥様の人柄にふれながら、歴史的に価値あるものを直接見て感じることを通して、自分の住んでいる地域を違った視点で見つめ返すきっかけとなった。また、道中には、用水に水草が揺れてきらきらと輝いている様子や、その水が池にとりこまれ、鯉がたくさん泳いでいる姿を見て、この地域の特徴についても触れる機会となった。すれ違う方々が「○○さん家の子かい？」などと温かい声をかけてくださり、どうして自分の家のことを知っているのか不思議に思う児童もいた。公園になっていたところは、旧桜井小学校の跡地であり、泉小学校として統合される前には、それぞれの地区に小さな学校があったことにも触れる機会となった。												

学校の概要		学校名	佐久市 立 岸野小 学校			学校長	清水 重光		児童生徒数	136 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		わか竹を育む会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援ボランティア代表</li> <li>岸野スポーツクラブ代表</li> <li>地域住民</li> <li>岸野守り隊代表</li> <li>育成会代表</li> <li>親芋の会代表</li> </ul>				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>6月30日(木)</li> <li>10月21日(金)</li> <li>2月7日(火)</li> </ul>		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え、仲間と考え合い、主体的に学習する子ども(かしこく)</li> <li>気持ちをこめたあいさつをし、人を大切にできる子ども(やさしく)</li> <li>清掃やマラソンからやり遂げる気持ちよさを感じる子ども(たくましく)</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 66 人		参加者延べ人数 150 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		読み聞かせ(年5回)				放課後学習ボランティア(年30回)				学習支援ボランティア(習字指導)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
毎週水曜日の放課後に地域のボランティアの方にお手伝いいただいている放課後学習では、担任が個々の参加児童に付けてほしい力や困り感を、個別ファイルに書き、それをボランティアの方に伝えることで、ボランティアの方に、児童に寄り添った指導をお願いできるようにしている。またボランティアの方からの情報を担任に伝える橋渡しをすることにより、児童の「できた、分かった、もっと知りたい。」という気持ちが増えることで、主体的な学習習慣が身につく、子どもたちの学力向上に繋がっている。また、毎年10月～11月に担任と放課後学習ボランティアの皆様との懇談会を行い、個々の児童の様子や今後の取り組みについて再確認することで、より効果的な活動となっている。													

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 中込小 学校	学校長	白鳥 貴文	児童生徒数	325 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		中込小コミュニティスクール運営委員会(藤の花会)		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月2日 12月17日 2月24日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 教頭 地域連携担当	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		ゆかしく(思いやりのある子) かしこく(よく考える子) たくましく(ねばり強い子)					
地域と共有された育てたい子どもの姿		よく考える子ども(知) ・主体的に学ぶ子ども ・学びを見返す子ども 思いやりのある子ども(徳) ・相手の話を聴く子ども ・気持ちのよいあいさつや言葉がけができる子ども ねばり強い子(体) ・体を動かし、目標に向かって挑戦できる子ども ・自分をふり返る子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 80 人 参加者延べ人数 118 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		花壇作り(5・10月)		中込っこタイム(クラブ)(年8回開催)		環境整備ボランティア(11月～)	
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>花壇ボランティアの方と環境委員会で、校舎正面の花壇の整備を行った。</p> <p>ボランティアの方に、花壇のデザインを考えていただいたり、苗の手配をしていただいたりした。それに基づいて花壇作りを行った。</p> <p>普段の草取りや水やりなども環境委員会で担当し、自分たちでつくった花壇という意識を持って活動することができた。</p> <p>全校児童、職員、来校者が必ず通り、目に入る花壇なので、華やかな、穏やかな気持ちで学校に登校することができた。</p> <p>来年度は開校150周年となるので、これから来年度の花壇のデザインを児童が考え、ボランティアの方にアドバイスをもらったりして、花のある学校作りをしていきたいと考えている。</p>							

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 佐久城山小 学校	学校長	金澤 正明	児童生徒数	407 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表						
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員						
ボランティアの方を対象とした研修会がある												
名称	佐久城山小学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ボランティア代表、地域住民、主任児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)						
	地域コーディネーター				人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					
人												
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月24日(金)、11月4日(金)、2月10日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)						
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
						教頭						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	本当の生き方を求め、自分の手足を動かし 頭を働かせ 心で感じとる											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の手足を動かす 子ども</li> <li>・自分の頭を働かせる 子ども</li> <li>・自分の心で感じとる 子ども</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	100 人				
						ボランティア登録者人数		150 人				
						参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児	○						
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	登下校時の見守り活動(通年)			食育学習(8/26)			川の学習(8/26)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>数年前から、本校では、地域の方の思いを受け、食育の学習を行っている。</p> <p>2年生は春の遠足で菜の花畑に行き、説明を聞く。3年生はジャガイモを育て、2年で見た菜の花畑でとれる菜種油を使い、その他の食材も地域の物を使い、地域のレストランの方の協力を得てコロッケバーガーを作るという活動をしている。そのほかにも、地域ボランティアの方の力をお借りし、大豆、米、サツマイモなどを育てている。学校運営委員会では、「育てたい子どもの姿」について協議した際、「以前支援学級で学び、現在地域で働いている子が、今年畑作りの手伝いに来てくれた。」という話があった。地域で育ち、地域のものを食べ、そして再び学校にきて学校を支える。特別なケースかもしれないが、食育学習は本校の特色の一つとなっている。</p>												

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 東小 学校	学校長	櫻井 孝	児童生徒数	258 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
		○		PTA代表		○	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
東の子応援団運営(推進)委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		見守り隊(兼 学習)ボランティア・花壇ボランティア・家庭科(兼 給食支援)ボランティア・託児ボランティア・読み聞かせボランティア代表者・児童館館長・民生児童委員長・男手の会会長		地域コーディネーター		2 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		令和4年5月16日(月) 令和4年10月18日(火) 令和5年2月16日(木)(予定)	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援コーディネーター	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		豊かな心を持ち よく考え 自分の力で生きぬく子ども					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<input type="radio"/> 自分や他の人を大切にすること(つながろう) <input type="radio"/> 自分の考えをもち学び続けること(考えよう) <input type="radio"/> 健やかでがんばりのきく子(きたえよう)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 90 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 800 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		読み聞かせ(5/9)		家庭科ボランティア(5/23)		米作り(脱穀)(5月～11月)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
内容:5年生の総合的な学習・米作り(米作りについてのオリエンテーション・田植え・案山子づくり・稲刈り・脱穀) 場所:学校で借りている学校田 関わって下さった方:学習ボランティア・コーディネーター・公民館長・学年保護者数名 成果:コロナ禍ではあるが、米作りについてのオリエンテーションや田植え、案山子づくり、稲刈り、脱穀を予定通り実施した。田の水管理など、かなりの部分について地域の方々に協力をいただいた。学校だけでは難しい米作りの体験を通して、日本の食を支える米づくりをしている方々の思いや工夫を知り、自ら汗を流して稲の生長に関わることを通して、命をはぐくみ、命をいただくことの大切さを実感することができた。							

学校の概要		学校名	佐久市 立 平根小 学校	学校長	井澤 昭	児童生徒数	159 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	平根小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 5 人					
		元区長		主任民生児童委員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人					
		公民館長		見守り隊の方								
会議開催数(予定)	5	回	今年度開催日(予定)	① 5月12日(木) ② 6月17日(金) ③ 8月31日(水) ④ 10月15日(土) ⑤ 2月16日(木)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教頭						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	聴く 明るく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	「聴く」問いを大切にし 考えをもち 表現し 振り返る 子どもの育成 「明るく」自尊心 他者意識 をもち、自他を大切にする 子どもの育成 「たくましく」じっくり取り組み 心身ともに粘り強い 子どもの育成											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	50 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		参加者延べ人数	80 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児	○						
	写真掲載なし 平根小学校区の各区長さんをはじめ、交通安全協会、交通指導員、PTA役員の方々など、約30名の方にお集まりいただき、平根小学校区の通学路やその周辺道路の安全に関わる危険箇所について話し合い、安全マップの作成・更新を行っている。今年度は、コミュニティスクール運営委員会と併せて実施したり、より細かな各地区ごとの安全マップの作成を行ったりした。安全マップをもとに共通理解を図ることができた。					読み聞かせ(毎週金曜日)		第45回平尾山もみじ祭り学童マラソン大会(10/28)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
例年、10月最終日曜日に、平根小学校区の区長会長が実行委員長となり、地区の各種役員の皆さんや佐久市観光課が実行委員となって、平尾山もみじ祭りが行われる。その祭りの一環として直前の金曜日に、もみじ祭り実行委員会と平根小学校とPTAが協力し合って「平尾山もみじ祭り学童マラソン大会」(もみじマラソン)が実施される。ここ3年間は台風災害やコロナの関係で実施されていなかったが、今年度はこれまでと形を変えて、もみじ祭りが行われる北パラダスキー場を会場として行われた。コースとなる会場の借用、グレンデの草刈りなどコースの作成、テントの設営、安協の方による交通整理など、多くの地域の方に支えられての大会となった。自分の出番で精いっぱい走る子どもたちや、友だちが走るのを一生懸命に応援する子どもたちの姿に、応援に駆け付けた地域の方や、大会を支えてくださった皆さん、みんなが感動し、地域の子どもの健やかな成長を共有し合った。また、コロナ禍で運動会の様子を見に来られない地域の方が多かったことから、日曜日に行われたもみじ祭りに、平根小学校から有志で90人の児童が参加して、運動会で踊った表現ダンスを披露した。このもみじマラソンやもみじ祭りを通して、地域と学校の絆の深さを、地域の方も子どもたちも学校も、共有し合うことができた。												

学校の概要		学校名	佐久市 立 岩村田小 学校			学校長	森泉 雄二		児童生徒数	521 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
名称		佐久市立岩村田小学校 コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ○民生児童委員 ○保育園理事 ○商店街理事 ○見守り隊代表 ○地元企業代表取締役 ○前区長 ○ボランティアの会代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 6 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回…4月28日(木) 第2回…7月21日(木) 第3回…2月22日(水) 計3回		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元校長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		『ひとりになれる ひとつになれる』 「いどむ」「わたし!」「むちゅう」「らしく」「だれとでも」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		①子どもの主体性が育つ授業 ②ちがいに寛容な心が育つ授業 ③誠実さと笑顔を育む伝統の継承											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 195 人		参加者延べ人数 2475 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃 ○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		お話を聞こう(7/25)				ダンスの振り付けをしよう(9/7)				まちゼミ(7/7)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・「まちゼミ」では、地域の方々を講師としてお招きし、お仕事体験を行った。地域の職業を担うその道のプロの方から仕事の大変さや面白さ、どのように社会貢献しているかなど、体験をもとにして教えていただいた。子どもたちは、今まで知らなかった職業に触れたり深くは知らなかった職業に触れたりすることで、仕事に対する興味関心を高めたり、大人への畏敬の念を持ったりする姿が見られた。</p> <p>・振り返り活動として、「まちゼミ」で学んだことを付箋にまとめ、お互いに見合う時間設けた。自分が感じたことだけでなく、友がどのようなことに心を動かしていたのかを知ることを通して、さらに仕事に対する興味関心や大人への尊敬の気持ちを高めることができた。</p>													

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 佐久平浅間小 学校	学校長	高橋 幸彦	児童生徒数	827 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
				市町村教委		自治会代表		
				公民館代表		PTA代表		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		
						○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
						○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	コミュニティスクール推進委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)				
				地域コーディネーター		1 人		
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月27日(金) 1月27日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
						保護者(PTA)		
						学校支援ボランティアコーディネーター		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	「みんなの中でわたしになる」～ちがいをチカラにかえる学校～							
地域と共有された育てたい子どもの姿	○心と体をはたらかせて共に学ぶ ○寛容の心をもち 誠実で笑顔あふれる子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 100 人 参加者延べ人数 200 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		放課後教科・体験学習
	人権教育	○	国際理解		託児			遠足・登山
								キャリア教育(職場体験を含む)
学校・家庭・地域の協働した取組例								
	お仕事ゼミ(6月21日)		読み聞かせ(通年)		見守り隊感謝の会(12月 予定)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
お仕事ゼミ (内容)・今年度は地域の企業33社にお願いして、子どもたちに対して仕事の内容を教えていただく授業を行った。 (ねらい)・地域に根ざした企業の方々に講師としてご協力いただき、仕事の魅力について教えていただく中で、地域のことを知ったり、将来の自分の仕事について、興味関心を深めたりすることができる。 (成果)・話を聞いたり、体験を通して、いろいろな職業があることを知れた。また、自分の将来に対して夢や希望を持つことができた。								

学校の概要		学校名	佐久市 立 高瀬小 学校			学校長	藤澤 直子		児童生徒数	174 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	高瀬小学校コミュニティスクール推進委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人
			・県議会議員 ・主任児童委員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月23日 11月4日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		かしこく つよく うつくしく									
地域と共有された育てたい子どもの姿		学ぶ楽しさを見いだす子ども 粘り強くやり抜く子ども 心身共に清々しい子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		28 人	
								ボランティア登録者人数		91 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	たかせっこ見守り隊(毎朝)		ふるさとこども学習(11/4)		読み聞かせ(各学年保護者希望回数)						
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【ふるさとこども学習】 ・おまんじゅう作りや、昔の遊び、茶道など地域に伝統的に伝わっていることや、地域企業の石けん作り、地域施設を使用したマレットゴルフ、地域の人材を生かしたプログラミング、アート、ペーパークラフト、ヘアアレンジなど、地域の方を講師に招き、校外3、校内7の全部で10の講座に全校児童が縦割り班で参加した。 ・小刀を使ったり、様々な素材から自分だけの作品を作り上げたり、ロボットに命令して動かしたりと普段できない経験を、6年生のリーダーを中心に異学年グループで協力して達成する喜びを地域講師の方と一緒に味わうことができた。 ・終了後は講師の方にお礼の手紙を書き、交流を深めた。講師の方にも大変喜んでいただいた。また、コロナ禍により公開はしなかったが、コミュニティスクール推進委員の皆様には参観していただき、地域に学ぶ良さのご意見と共に、地域のお寺の住職さんや以前講師を務めた和太鼓の方など、講師の紹介もしていただいた。											

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 中佐都小 学校	校長	黒沢 知博	児童生徒数	317 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		中佐都小CS応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
				・主任児童委員		地域コーディネーター 1 人	
				・区長会副会長(地区育成会担当)		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		①令和4年5月12日 ②令和4年11月12日 ③令和5年1月20日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						担当職員	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		なかよく かしく さいごまで ふるさととともに					
地域と共有された育てたい子どもの姿		①友を思いやり、共に高め合うことができる姿 ②子どもと共に作る授業 教えるから学ぶ姿。 ③見通しをもって、最後まで粘り強く取り組む姿。 ④ふるさと中佐都を愛する姿。					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 13 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 107 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動 ○		給食	
				総合的な学習の時間支援		休み時間	
				防災学習(避難訓練)		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
						遠足・登山 ○	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		登山ボランティア 令和4年7月5日		クラブ講師 令和4年9月8日・29日		学習ボランティア 年間を通した活動	
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
・クラブ講師の招へい 令和4年度から実施。9月に2回開催した。 内容は「茶道」「習字」「水墨画」「書道パフォーマンス」「竹とんぼ作り」。 地域の方で、特技を持った方を講師として、子どものニーズに合わせたクラブ活動を行った。 普段の授業ではできない活動を通して、より、子どもたちの探究的な活動につなげることができた。							

学校の概要		学校名	佐久市 立 浅科小 学校			学校長	熊井 恵子		児童生徒数	282 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>														
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	浅科小・中学校コミュニティスクール推進委員会 小学校部		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人			
			小学校・中学校に関わる地域の方(元学校評議員、元民生児童委員等の方々)						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)		5月19日 9月27日 2月13日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>														
学校教育目標	夢や憧れに向かって学び合う子どもたち ~賢(かしこく) 優(やさしく) 健(たくましく)~													
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から学び、考えを深める子</li> <li>・違いを認め合い、友に寄り添える子</li> <li>・粘り強く最後までがんばる子</li> </ul>													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について				○									
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		約30 人				
								ボランティア登録者人数		約150 人				
								参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○	給食	○	休み時間	○
	清掃		ICT		○	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解			託児								
														
	五郎兵衛用水の見学(9月30日)		浅科ふれあいタイム(10月15日)		さつまいもの収穫(10月26日)									
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>														
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)														
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)														
<p>本年度「浅科ふれあいタイム」をはじめた。ホームページにて、「子どもたちとの「ふれあい(ともに遊ぶ、会話を楽しむなど)」を行ってくださる方」を募集。活動内容や日程をコーディネーターと発案者で検討し、児童や職員へ周知して実施。第1回は、CS推進委員であるPTA会長が企画して「ペットボトルロケットを楽しもう」を行った。以下、ホームページに掲載した「浅科ふれあいタイム」の様子を紹介したものを掲載。</p> <p>さわやかな秋晴れの下、10月15日(土)「地域参観日」下校後に『「ペットボトルロケット」を楽しもう』を実施しました。多くの子どもたち、保護者のみなさまに参加していただき、楽しい時間を過ごすことができました。ペットボトルロケットに水を入れる、発射台にセッティングする、飛んだロケットを回収するなど、みんなでフォローしあってたくさんのロケットを飛ばすことができました。突然飛び出す、噴射された水で濡れる、思った方向へ飛ばないといったハプニングも楽しめました。「なんで、ペットボトルは飛ぶのだろう」と子どもたち同士でお互いの考えを伝え合う姿もありました。これからの科学の学習を積み重ねる中で、ペットボトルロケットが飛ぶ謎を解明していけるとよいですね。企画、協力してくださった保護者や児童のみなさま、ありがとうございました。</p>														

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 望月小 学校	学校長	友野 修一	児童生徒数	315 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
				市町村教委		○						
				自治会代表		○						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○						
				PTA代表		○						
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○						
				学校長・教頭以外の学校職員		○						
ボランティアの方を対象とした研修会がある												
名称	もちっこ応援団推進委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民、ボランティア団体代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)						
	地域コーディネーター		2		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5/20(金)、10/20(木)、1/23(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)						
						地域住民						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで学習に参加する子、友だちの考えを聴き考える子、思いを自分の言葉で表現する子、問いをもち探求し続ける子</li> <li>・進んであいさつする子、なかよく遊ぶ子、相手の気持ちを考える子、「ごめんね」「いいよ」と言える子</li> <li>・自らめあてをもって取り組む子、あきらめずに努力し続ける子、進んで運動に取り組む子、清掃で心を磨く子</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	85 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	456 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児	○		○		○		
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		1年生松明山遠足(9/30)			クラブ活動(9・10・11月、4回)			読み聞かせ・語り(6~12月、6回)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
今年度は、高学年のクラブ活動として10のクラブが発足し活動を行っている。それぞれのクラブには、講師として地域の方がボランティアで指導をしてくださっている。このうち、和楽器クラブでは、地域の伝統的な民謡「望月小唄」でも演奏される「篠笛」を教えていただいている。篠笛の演奏技術はもちろん、篠笛を通して、地域の伝統文化にも触れる貴重な機会となっている。今年度は篠笛に加え三味線の演奏にも挑戦している。												

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市立東小 学校	学校長	土屋 剛	児童生徒数	437 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	小諸市立東小学校信州型コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校長、学校支援ボランティア代表、学校評議員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月18日 1月16日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かしこい子</li> <li>・やさしい子</li> <li>・たくましい子</li> </ul>									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考え、ねばり強く問題を解決する子ども(自主)</li> <li>・互いに支え合い、自他を認め合って大切にすること(共生)</li> <li>・心身ともに鍛え、夢に向かって力強く歩める子ども(創造)</li> </ul>									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 135 人 参加者延べ人数 140 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	読み聞かせ(月1回)			放課後囲碁クラブ(7月22日)			浅間嶺ワクワク大夢(6月11日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>										
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<b>【浅間嶺ワクワク大夢】</b> 平成14年度から続いている活動である。土曜日の午前中を活用し、地域の方・保護者が指導者を務め、学校教育以外の知識や体験を得られる場として年間8回、学校を会場に実施している。運営は、PTAの浅間嶺ワクワク大夢実行部が行っている。活動資金は、コミュニティスクールへの市からの交付金の一部を当てている。 令和4年度は、昨年度までの8つのサークルに囲碁サークル(放課後囲碁クラブは別組織)を加えて9つのサークルを立ち上げた。児童99名、指導者35名が参加した。児童にとっては、専門的な知識や技術を持った指導者と触れ合いながら楽しく学ぶことを通して、興味関心を更に高め、今後の生活を豊かにする機会となっている。地域講師や保護者にとっても、子ども達や学校職員との触れ合いを通して、学校の取り組みや子どもの様子を知る良い機会となっている。しかし、本年度は新型コロナウイルスの感染状況の影響が多く、実際の活動は第1回のみとなってしまった。										

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市 立 美南ガ丘小 学校	学校長	塚田 直道	児童生徒数	580 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	美南ガ丘小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 教職員経験者 主任民生児童委員 主任児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月31日 10月13日 2月14日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	よく学び、よく遊び、がまんできる子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	あいさつができる学校。子どもたちが楽しく通う学校。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について	○							
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	約60 人			
					参加者延べ人数	約50 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	花壇整備(7/13)		社会科出前授業(7/6)		家庭科裁縫指導(5/18)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民のコーディネーター2名が中心となって必要に応じてボランティアさんの派遣をして下さっている。</li> <li>・上記写真の家庭科裁縫指導では、5年生が初めての裁縫(玉止め・玉結び)を行う授業で、授業者一人では一人ひとりの児童が技術を習得するのに手が足りない状況で地域のボランティアの方が3名入っていただき、丁寧に指導にあたっていただいた。写真はないが、同じく6年生の家庭科でもボランティアさん3人に入っていたいただき、ミシンの指導をしていただいた。</li> <li>・昨年度4月より1年生教室の隣の空き教室を「ボランティアルーム」として開放し、地域のボランティアの方の拠点としている。</li> </ul>									

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市 立 野岸小 学校	学校長	丸山 穰	児童生徒数	274 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
				市町村教委		○			
				自治会代表		○			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○			
				PTA代表		○			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○			
				学校長・教頭以外の学校職員		○			
信州型コミュニティスクール運営委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入					
名称				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月16日(中止) 12月7日 2月3日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	保護者(PTA)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	「すなお やりぬく 考える じょうぶ」 ○友や地域と温かく関わる子ども ○粘り強く取り組む子ども ○自ら求めて学ぶ子ども ○自ら体をきたえる子ども 心をきたえる子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	学校目標の「すなお やりぬく 考える じょうぶ」な野岸っ子								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		22 人		
					ボランティア登録者人数		39 人		
					参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	人権教育		国際理解		託児		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		稲作指導(4/21)		ぶどう植樹体験(5/6)		書写(6/13)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
『ぶどう収穫』～かしの木学級の生活単元学習 2年目～ 地域産業のワイナリーと一緒に1年間活動に参加させていただいた。地元の商業高校の生徒、ぶどう園の近くの小学生と産業を支えている方々と春先のぶどうの植樹からスタートした。最初は、高校生とのコミュニケーションも自分から積極的にできなかったが、2回目のつるの剪定や3回目のぶどうの収穫と一緒にすることで、高校生や地域の方々とも徐々に仲も良くなり、次の活動が楽しみになっていった。3回目のワイナリーの工場の見学後は、自分達が収穫してできたワインを入れる瓶のラベル作りを高校に向いてグループごとにイメージを考えた。プロのデザイナーの方が最終の案を練り上げて、グループで考えた案を1つに絞るそう。今後、自分達で収穫して完成したワインが出来上がると自分達が考えたラベルを瓶に貼って、製品として市販されることになっていく。 最初は地域の方や高校生に教わることが多かったが、だんだん慣れていくうちに、自分から進んでコミュニケーションをし、活動する児童が多くなっていった。高校生の中には、小学生と接することで教職の道を目指そうとする生徒もいてグループでリーダーシップのあり方を相談されることもあり異学年と学習することで多くの事が学べる活動となっていった。									

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市 立 坂の上小 学校	学校長	佐藤 春夫	児童生徒数	288 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	坂小応援団		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
			育成会代表 高齢者クラブ代表 おやじの会代表				地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	5月27日 11月7日 1月27日	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	地域住民		
					具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	ただしく ゆかしく たくましく							
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	○自ら問いをもち、主体的に学ぶ子 ○友達や学校、地域を大切にできる子 ○困難に立ち向かえる社会性や人間力を身に付けた子							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	53 人
							参加者延べ人数	105 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(こども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山
	人権教育		国際理解		託児			キャリア教育(職場 体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	読み聞かせ『ひみつのひきだし・おだまきの会』		見守り隊(毎日)		民生児童委員草取り(年4回)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
毎年、民生児童委員の皆さんが大きな行事の前に、年4回にわたり、早朝に草取りを行ってくださっている。児童は朝の挨拶をするとともに、ありがとうございますと感謝の気持ちを伝える子もいる。コロナ禍で外部者との接触がなかなかとれない状況にある中で、子どもたちは、地域の方との触れ合いもできた。 ①6/3(金)運動会前日 ②7/1(金)参観日前日 ③8/25(木)滑川交流前日 ④9/30(金)保育園運動会(校庭貸出)前日								

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市 立 水明小 学校	学校長	渡辺 玲子	児童生徒数	300 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	水明コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学校評議員、地域住民、校長、教頭		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			
						地域コーディネーター	3 人		
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定) 第1回 令和4年6月16日(木) 第2回 令和5年2月 6日(月) (予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標		『よく遊び よく学ぶ』 ～人間尊重の精神に支えられた、主体的・創造的で実践力のある児童の育成～							
地域と共有された育てたい子どもの姿		安全、環境、学習、行事などへの支援を通して地域全体で児童を見守るという環境を作っていきたい。 児童には、地域の皆様に支えられていることを節目ごとに伝え、感謝、郷土愛の気持ちを持たせたい。							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 123 人 参加者延べ人数 12392 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○							
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援		コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		クラブボランティア(7月15日)		脱穀(10月14日)		スケート場の水撒き(令和3年12月22日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
クラブボランティアの方のご意見を取り入れ、今年度はクラブの回数を3回から5回に増やした。新型コロナウイルスの影響を考慮し、お断りの連絡もあったが、8名の地域ボランティアの方のご支援を得ることができた。第3回のクラブはコロナ感染予防の観点から中止とした。 ○日程 クラブ講師との打合せ:5月19日(木) 第1回:6月21日(火) 第2回:7月19日(火) 第3回:8月30日(火)→中止 第4回:9月6日(火) 第5回:11月15日(火)									
○支援を受けたクラブ 地域たんけんクラブ、昆虫クラブ、昔遊びクラブ、版画クラブ、パステル画クラブ、小物づくりクラブ、洋裁クラブ									
○ボランティアの募集の仕方 これまでボランティアを引き受けて下さった方を中心に、新規の申込も受け付け今年度2名の方が加わった。									
○成果・効果 ボランティアの方が準備を行うことで、内容の質が向上し、学校職員の負担軽減にもつながった。									

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市立千曲小学校	学校長	深沼 浩	児童生徒数	88 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
千曲小学校学校評議員CS運営委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
名称		主任児童委員 元主任児童委員 地域住民 前区長		地域コーディネーター		2 人	
地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		○		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		1 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月27日 10月6日 2月14日	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		「ちくまの心」くち…知恵をみがこう くく…苦勞をかってでよう くま…真面目に生きよう					
地域と共有された育てたい子どもの姿		・郷土に誇りをもつ子ども ・目標に向かって粘り強く取り組む子ども ・人間関係力の高い子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 53 人 参加者延べ人数 30 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		りんご栽培(通年)		小室節(10月～11月)		ぶどう栽培(通年)	
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○ぶどう栽培 ・コロナ禍ではあるが、感染対策をとりながらできる活動を行う方向で進めてきている。 ・地域のぶどう園でぶどう栽培の体験をする他、地域にあるワイナリーで、ワインづくりの学習も行っている。 ・本校の児童だけでなく、感染状況をみながら、小諸商業高校の生徒と一緒に活動することができた。 ・総合的な学習の時間だけでなく、社会など各教科と関連付けながら横断的な学習を進めることができた。							

<b>学校の概要</b>		学校名	軽井沢町 立 軽井沢東部小 学校	学校長	盛野 憲俊	児童生徒数	147 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			○	ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	軽井沢町学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれ的人数を記入)	地域コーディネーター 1 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月17日 9月6日 2月28日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	教育委員会職員	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		軽井沢町教育委員会生涯学習課生涯学習係長	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標	風土に恥じないさわやかな人になれ やさしく かしこく たくましく						
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々とコミュニケーションを積極的にとろうとする子ども</li> <li>・地域の方々に感謝し、自分も軽井沢東部地区の大切な一員であるという意識を持つ。</li> </ul>						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	30 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				参加者延べ人数	16 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	国際理解	託児				
							
	ひまわりの苗植え活動(6月17日)	通訳・学習ボランティア(7月)	パンジー苗植え(10月27日)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>今年で12年目の活動となる「ひまわりの苗植え活動」を本年度も行った。地域の社会福祉協議会の皆さんを中心とした「東部小ひまわり連絡会」の方とともに、縦割り班ごとに分かれた全校児童が、校舎の周りにひまわりの苗を植えた。40名のひまわり連絡会の方が参加してくださり、児童とコミュニケーションをとりながら活動して下さった。活動中、植え方を教えて頂いたり生き物を探して遊んだりするなど、様々なコミュニケーションが生まれ、地域の方と接するよい機会となった。夏休み中には、ひまわりの会のみなさんが草取りや水やりをしてくださり、とてもきれいな花が学校の周りを囲んだ。9月には片付けもして下さり、地域の方が支えて下さっていることを知り、感謝の気持ちをもつことにつながっている。学校を彩ったひまわりは、学校を訪れた方や観光客の目も楽しませ、子どもたちにとっての「自慢の学校」という気持ちも育んでいる。</p>							

<b>学校の概要</b>		学校名	軽井沢町 立 軽井沢中部小 学校	学校長	小宮山 健一	児童生徒数	486 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表	PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	軽井沢町学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			
				学校長 地域住民 民生福祉委員 元各学校の学校評議員		地域コーディネーター	1 人		
会議開催数(予定)		3 回	今年度開催日(予定)	6月17日 9月6日 2月28日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						教育委員会職員			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
						軽井沢町教育委員会生涯学習課生涯学習係長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	やさしく・かしこく・たくましく ～豊かな心で、共に生きる力をもつ中部の子～								
地域と共有された育てたい子どもの姿	身近な人、および専門家からの直接指導により、学習意欲が高まり、地域の支えを感じることができる。 自分が住む地域の歴史や自然、経済について、より深く学習しようという意欲がわき、故郷を愛したい気持ちが育つ。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 30 人 参加者延べ人数 20 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
書写講習会5. 17		ボランティア団体「もぐりん」料理クラブの活動6. 21		「なるには講座」指紋採集体験9. 30					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学区内にお住まいで、毎年お世話になっている書道教室の先生に指導していただいている。</li> <li>・今年度は、毛筆書写が初めての3学年を中心に、筆の持ち方、墨を量の調整のしかたなどを指導していただいた。</li> <li>・専門家から直接指導をしていただき、毛筆書写への意欲が高まった。以後の書写授業でも教えていただいたポイントを児童も気をつけながら学習を進めることができた。</li> </ul>									

<b>学校の概要</b>		学校名	軽井沢町 立 軽井沢西部小 学校		学校長	田野 公章		児童生徒数	372 名						
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
			市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある									
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称	軽井沢町学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	・6月17日(金) ・9月 6日(火) ・2月28日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員							
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		軽井沢町教育委員会生涯学習課生涯学習係長							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>															
学校教育目標	じぶんでかながえ みんなでつくる														
地域と共有された育てたい子どもの姿	○「自律・共生・探究する子ども」 ・「自律」・・・自ら問いをもち、考え、行動する子ども ・「共生」・・・お互いを尊重し、自分や友達を大切にできる子ども ・「探究」・・・よさを求め、粘り強く取り組む子ども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○				
2	学校運営への必要な支援について				○										
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	34	人				
							参加者延べ人数		143	人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間						
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習						
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)					
	人権教育		国際理解		託児										
	学校・家庭・地域の協働した取組例														
				西部小を語る会(7月25日)				八風山強歩登山(9月30日)				ビオラの苗植え(11月8日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
○西部小を語る会 民生児童委員、学習ボランティア、保護者の方々と西部小児童のよさと課題について話し合った。地域や保護者の方々が、子どもたちのためにできそうなことを様々な角度から提案して下さった。															
○八風山強歩登山 約100名の保護者ボランティアが、全校児童の安全確保のために往復26キロの道に立ち、見守ってくださり、全員が無事にゴールできた。															
○ビオラの苗植え 8名のボランティアの方々が、1、2年生に花の植え方や育て方を教えて下さった。自分の花を大切に育てようとする心が子どもたちに芽生えた。															

<b>学校の概要</b>		学校名	御代田町 立 御代田南小 学校		学校長	白鳥 郷史		児童生徒数	572 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	御代田南小学校CS(コミュニティスクール)学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育委員、ボランティア代表、地域企業担当者、社会福祉協議会、有識者			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			1	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月16日 11月10日 2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	ひとを愛し おのれにきびしく ふるさを味わえ										
地域と共有された育てたい子どもの姿	確かな学力と豊かな心を育み、生き生きと学ぶ子どもの育成 <input type="checkbox"/> 互いを受け入れ、理解し合い、協調し合える子ども <input type="checkbox"/> 自分に厳しく、自ら実践できる子ども <input type="checkbox"/> 地域に学び、地域を知り、地域のよさを実感できる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数			260
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4			参加者延べ人数			40
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解	○	託児	○					
学校・家庭・地域の協働した取組例											
			3年花の苗植え(6月2日)			お話の会による読み聞かせ(6月15日)			5年脱穀(11月4日)		
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
5年生が毎年受け継いでいる被災地からの「わすれ米」の栽培活動を、地域の方にご支援いただきながら今年も実施することができた。コロナの感染拡大状況を受け、収穫祭は予定日より延期し、学級ごとの対応にする予定である。児童は、自分たちの活動の達成感を味わうとともに、東日本大震災当時の様子についても学んだ。お話の会による読み聞かせは、1学期は実施することができた(2学期は感染拡大レベルへの対応から休止中)。当校の子どもたちは、保護者や地域の方の読み聞かせを大変楽しみにしている。読書好きな児童が育っている一つのきっかけとなっている。11月の第2回学校運営協議会では、委員の皆様にも、南小が目指す子どもの姿について意見交換をする機会をもち、学校と地域がともに児童を育てていくという意識を高めるきっかけとなった。											

<b>学校の概要</b>	<b>学校名</b>	御代田町 立 御代田北小 学校	<b>学校長</b>	宮澤 雅法	<b>児童生徒数</b>	259 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	北小応援団運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)						
			民生児童委員代表 ボランティア代表		地域コーディネーター	1 人					
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人						
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月23日 10月18日 2月10日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	元町議会議員(元公民館長)						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	『み・よ・た』の子 人間尊重、自主、自律、心身ともに健康な子どもの育成										
地域と共有された育てたい子どもの姿	・さわやかにあいさつする子 ・自分との違いを認め、誰とも助け合う子 ・物を大切に使い、生き物の命を大切に ・自分を正し、進んでよい行いをする子 ・人の話を聴き、自分の考えを正しく伝える子 ・自分の課題をもち、ねばり強く追究する子 ・進んで運動し、体を鍛える子 ・自信をもちあきらめないでやりとおす子 ・食べ物に感謝し、好き嫌いをなく食べる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について		○								
3	地域の実情や課題について		○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 約700 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	○
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
	読み聞かせ(通年)		田植え(6/9)		ステージバック完成(10/26)						
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○ コミュニティスクールのメンバーからコミュニティルーム開設の取り組みが始まり、休み時間に折り紙や読み聞かせ、体操などの活動をしていただいた。また、昨年度に引き続き、音楽会に向けてステージバックの制作に取りかかっていた。いろいろな色のお花紙を丸める作業は児童や地域の方にも取り組んでもらい、多くの人が関わって一つの物を作り上げることができた。											

<b>学校の概要</b>		学校名	立科町 立 立科小 学校	学校長	桂本 真司	児童生徒数	264 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称		立科町立小・中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		1		人	
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		・1回目は7月5日に実施 ・2、3回目は11月、2月に開催予定	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		「よく考えてやりぬく」「はげましがき合う」「心と体をきたえる」立科の子ども					
地域と共有された育てたい子どもの姿		すべての子どもに「生きるちから」を育む(立科教育)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 90 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 175 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ	
		清掃		○		ICT	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動	
		人権教育		○		国際理解	
		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動	
		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援	
		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		給食	
		託児		○		休み時間	
		防災学習(避難訓練)		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				○		遠足・登山	
				○		放課後教科・体験学習	
				○		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		三校清掃(5月30日)		稲刈り(9月21日)		天体学習(10月3日)	
		<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
今年度は、6年生による星のソムリエ(地域講師)による天体学習を行った。実際に双眼鏡や望遠鏡の基本的な使い方を教えていただきながら、双眼鏡を操作して遠くのものや月を見たりする体験学習を行った。子どもたちは、初めて手にした双眼鏡や天体望遠鏡などに興味をもち、自分から進んで地域講師に質問をしたり話を聞いたりしていた。中には、家にある双眼鏡でも試してみたいという感想を持った児童もいた。月の学習にも前向きに取り組み、普段の理科の学習にも進んで取り組む児童も増えてきた。							

<b>学校の概要</b>		学校名	東御市 立 田中小 学校	学校長	寺島 努	児童生徒数	455 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		公民館代表		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○			
名称	田中つ子を育む会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
会議開催数(予定)	3	回	(地域の役員に考慮して1~12月で3回の委員会を実施) 第1回 令和4年2月17日(木) 第2回 令和4年4月18日(金) 第3回 令和4年10月28日(金) (令和5年度 第1回 令和5年2月20日(月)に予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)		元本校心の相談員		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	つよく かしく あたたく								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくましい体とところの子</li> <li>・考え合う子</li> <li>・なかよしを大切にす子</li> </ul>								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について		○						
3	地域の実情や課題について		○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 27 人 参加者延べ人数 450 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
									
	①8月26日(巨峰の摘粒・袋がけ)3学年		②7月7日(夏祭りをしよう)4学年		③9月16日(海野宿探検隊)4学年				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ お祭りから海野宿探検隊へ									
<p>コロナ禍で様々な活動に制限があり、今年は何か楽しいことを総合的な学習の時間でやろうと計画した4年2組。そうして取り組んだ「夏祭り」。1回目はリハーサルを兼ねて自分たちが楽しむために、2回目は1回目の改善点を活かして同学年のクラスと学校応援団さんを招待した(写真②)。そこから、地域のお祭りについて調べ、学区にある北国街道の宿場町「海野宿」について興味を持った。江戸時代の旅籠造りと明治時代の蚕室造りの風情ある建物が続くこの地区では、お祭りや催しがいくつもあることを知り、そこに自分たちもブースを出店しようと考えた。そのため、まず海野宿とはどういう地区で、どんな歴史があるのか調べ(写真③)、地域の語り部や神社の宮司さんのお話をうかがった。11月の「うんのわマルシェ」での出店に向け、地区の方と打合せ、場所を確認し、お客さんに喜んでもらえる準備に意欲的に取り組んでいる。また、このクラスの活動に影響を受け、別のクラスも新たな「海野宿探検隊」として、おそば屋さんに出かけ、そばうちの実際やそばうち職人の思いに触れている。地域の魅力を知り、考え合い、仲良く活動しながらふるさとを誇りに思う子どもにも育つことを願う。</p>									

<b>学校の概要</b>		学校名	東御市 立 祢津小 学校	学校長	仲沢 いずみ	児童生徒数	267 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
				自治会代表		○						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
				PTA代表		○						
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○						
				学校長・教頭以外の 学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	祢津小学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)						
						地域コーディネーター	1 人					
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人					
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	5月17日(火)・2月24日(金)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)						
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)						
						教頭						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	正しく ゆかしく たくましく											
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	身近な地域のひと、もの、こととかわり、課題を見つけ、より良く解決し、新たな課題に向かって主体的に追求する。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの 人数					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		ボランティア 登録者人数 18 人 参加者延べ 人数 60 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	○
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
			3年生 地域巡り(4月～5月)			4年生 オカリナづくり(6月～12月)			6年生 ワインブドウ収穫などのボランティア(10月)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
6年生が今までに地域の方々にお世話になったことを通して、「地域へ恩返しをしたい。東御市や祢津の魅力伝えたい」という願いを持って活動を行っている。 祢津地区のあるワイナリーやリンゴ農家を訪れて、ワインブドウの収穫、リンゴの収穫のお手伝いを行った。地域を盛り上げようと働く格好しい姿を見て学び、自分たちもまた地域のために行動しようとする気持ちを改めて持つことができた。 また、令和2年から始まった通学路のゴミ拾いを引き継ぎ、ゴミのない東御市・祢津を目指して取り組みを継続している。学年では定期的にゴミ拾い登校を行いながら、よりゴミへの関心を持ってもらうために全校への呼びかけを行い全校ゴミ拾い登校も実施することができた。同時にSDGsに関心をもち、児童集会や問題を出しながら全校の意識を高めることができた。 毎年の6年生が活動を引き継ぐ事で、さらに地域への恩返しや魅力発見の継続的・発展的な活動になっている。												

学校の概要		学校名	東御市 立 和 小 学校		学校長	宮下 聡		児童生徒数	315 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	「かのう」学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 和財産区代表 学校評議員代表 各ボランティア代表(教育支援・農業支援・クラブ・読み聞かせ・合唱)				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)		5月12日 11月18日 2月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長 教頭				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	つよく かしく あたたく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と他の人を大切に作る和の子</li> <li>・自ら問いをもち、自ら考え、自分なりに表現する和の子</li> <li>・違いを認め、力を合わせて解決していく和の子</li> <li>・自分に自信をもち、チャレンジしていく和の子</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		285 人		
								ボランティア登録者人数		195 人		
								参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○ 昨年度から「4～6年生の子どもたち全員が、自分のやってみたい活動を経験できるクラブ活動にしたい!」という願いで、児童に「クラブ活動でやってみたいこと」についてアンケートをとり、希望があった活動について係職員と教頭が中心となって講師を務めていただける方を探し、全ての児童の願いをかねえられるようにしている。今年度は「フラワーアレンジメント」「手芸」「ニューススポーツ」「卓球」「バドミントン」「将棋」「数字マジック」「小物作り」「木工工作」「茶道」「消しゴムはんこ」の11のクラブを実施することにし、市のスポーツ推進委員や地域の方など約15名を講師として招き、7月と9月の2回活動をした。消しゴムはんこフラワーアレンジメントは学校職員が講師を務め、他のクラブでは職員も子どもたちと一緒に活動を楽しんだ。興味関心が同じ仲間たちと95分間活動を楽しむことで、自然に異学年の仲間関係が広がり、教師もこれまであまりかかわりがなかった子どもたちとつながることができ、廊下で会うと声をかけてもらえるような関係を築くことができた。また、クラブ活動が行われる日は、普段登校を渋りがちな児童も元気に登校することができていた。わかりやすく丁寧に教えてくれたり、示範をしてくださったり、難しい部分を手伝ったりしてくれる地域の方々に対し、子どもたちが感謝の気持ちをもって、尊敬の念を抱いたりすることにもつながっている。第2回のクラブが行われた後に書いた手紙には、「また来年も○○さんに来てほしい。」という言葉がたくさん見られた。												

学校の概要		学校名	東御市 立 滋野小 学校			学校長	鹿取 ちか		児童生徒数	252 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		東御市立滋野小学校の子どもを育む会(学校応援団)				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						しげの里づくりの会青少年育成部会 学校支援ボランティア代表 民生児童委員会会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月18日 2月17日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		やさしく かしく たくましく 自ら考え 行動する子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		未来を切り拓き、豊かに生きる子ども ○他や郷土を思う心豊かな人間性、自立できる強さと能力、活動に没頭する活力と実践への自立力											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人		参加者延べ人数 100 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		米作り体験学習(R4.10.13)				おもちゃ作り体験学習(R4.7.13)				巨峰収穫体験(R4.9.12)			
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【4年生 稲作体験学習】 ・田植え、雑草取り、稲刈り、脱穀の活動を児童が地域の学校応援団の皆様と一緒に体験した。日本の主食である「ご飯」が食卓で食べられる状態になるまでには多くの苦労があることを、自分の身体を使って体験することを通して、学ぶことができた。 ・学校周辺の草刈りや毎日の水管理については、学校応援団を中心にして、地域コーディネーターの知人ら10人前後のメンバーに、道具や機材を持参して参加いただいた。 ・学校の機材や職員だけでは管理・指導できないところを、学校応援団の皆様が、豊富な知識・技能を授けてくださり、機材も提供いただき、児童にとって貴重な体験をすることができた。 ・米作りの体験を通して、児童の自然に関する学習意欲が高まり、身近な生物調べ、ホタルの飼育、ホタル水路整備、池や水路の水質検査など多方面に主体的な学習活動が広がってきている。													

<b>学校の概要</b>		学校名	東御市 立 北御牧小 学校	学校長	牛越 宏江	児童生徒数	210 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		公民館代表		○		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○	
		学校長・教頭以外の学校職員		○		○	
名称		北御牧小学校コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		学校評議員代表		学校応援団代表		地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		①4月22日、②9月13日、③2月7日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		みんな なかよく まなびあい きたえよう 心とからだ					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに支え合い、思いやる心を育てていく子ども</li> <li>・互いに聴き合い、考え合い、伝え合う子ども</li> <li>・健康な心と体を育てていく子ども</li> </ul>					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 74 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 342 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		学校・家庭・地域の協働した取組例		1年・学習支援(図工)(7月7日)		4年・八重原用水見学(9月26日)	
							
		2年・さつまいもの植え付け(5月24日)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>[八重原用水見学]</p> <p>毎年、4年生が「特色ある地域と人々の暮らし」「文化と先人たち」の単元で八重原米(地域で作っている米)を学習する中で、丸1日かけて八重原用水の見学に向かっている。「八重原用水の歴史と維持を学ぶ会」「八重原土地改良区」から約10名の方にガイドとして参加いただき、荒井戸頭首工、大滝源水、女神湖、陣内発電所、上八重原分水樹、君塚大土手、明神池、黒澤家屋敷跡を巡り、先人達の努力や工夫、苦勞について解説して下さっている。</p> <p>学習を進めるにあたり、平成27年度に学校外組織により作成された学習展開案(6時間扱い)に基づいて授業を進めたり、令和2年度に刊行・寄贈された「蓼科の清らかな水が流れて～八重原新田開発の祖 漫画 黒澤嘉兵衛物語～」を利用したりしている。さらに、令和2年度には、黒澤嘉兵衛の偉業や八重原米がブランド米として評価されるに至った八重原用水の貴重な資料をまとめたDVDを寄贈いただき、事前学習の中で視聴している。学習を通じて、子どもたちは地域の人・もの・ことに目を向け、地域のよさを感じている。</p>							

<b>学校の概要</b>		学校名	長和町 立 長門小 学校	学校長	宮島 哲也	児童生徒数	169 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
				自治会代表			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		長門小学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)	
						地域コーディネーター 2 人	
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者) 人	
会議 開催数 (予定)		3 回		今年度 開催日 (予定)		5月27日、9月22日、2月17日	
						中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(他を 選択した場合は立場・役職を記入)	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		つよく かしく、あたたかく					
地域と共有され たい子どもの姿		心身ともに健やかな子ども 人やもの、自然や命を大切に する子ども 学ぶことを楽しめる子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 88 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動 ○		子ども食堂(子ども カフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動		給食	
				総合的な学習の 時間支援 ○		コロナウイルス対策 の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山	
						休み時間	
						放課後教科・ 体験学習	
						キャリア教育(職場 体験を含む)	
						写真	
		学校・家庭・地域の協働した取組例					
		しいたけ等きこのコマうち(6月9日)		稲刈り・脱穀(10月12日)		活動名(日付)	
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>田んぼボランティアの方と田植え、稲刈り、脱穀の体験を行った。活動の中で昔の稲作の道具と現代の農機具の両方を体験することができた。一連の活動を通して農作業の大変さや道具の進化、便利さなどを実感することができ、お米やそれを生産する農家の方へ感謝の気持ちをもつことができた。また、お米の作り方を知識として知るだけでなく、実感を伴って学ぶことができた。</p> <p>地域柄、米作りをしている家が多いが、機械化が進み手伝いをする児童は減少しているため、学校での体験が初めてという児童が多く、これからの年間を通しての米作り体験を地域の方にお手伝いしていただきながら継続していきたい。</p> <p>読み聞かせやマシンの授業など多くのボランティアに協力をいただいている。</p>							

<b>学校の概要</b>		学校名	長和町 立 和田小 学校	学校長	荻原 司	児童生徒数	34 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	和田学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいますか(それぞ れの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人			
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人			
会議 開催数 (予定)	4	回	今年度 開催日 (予定)	4月15日、10月13日、1月25日、3月2日		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)			
				具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標	なかよく かしく たくましく									
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	地域に育ち 地域に学び 地域に活かす子どもの育成									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	72 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		ボランティア登録者人数	53 人		
		ボランティア参加者延べ人数						53 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例					写真				
	しいたけ等きこコマうち(4月12日)		稲刈り・脱穀(10月11日)		活動名(日付)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>シイタケとナメコの本伏せを、学校林において5年生と「みどりの体験支援部」のボランティアの方と教員で、支援部の方からやり方や意味などを教わりながら行った。また、その終了後には設置しておいた野鳥用の巣箱の観察をし、卵があるのを確認することができた。</p> <p>また、農業の体験ではコマ作りについて田植え、稲刈り、脱穀を体験し、お米を育てる大変さを学んだ。</p> <p>読み聞かせ等コロナ禍でも感染に注意しながら実施した。</p> <p>体力づくりとして、「ポッチャ」体験を行った。</p> <p>和田地域の豊かな自然の恵みに触れることができ、地域を誇りに思う気持ちが育ってきている。</p>										

<b>学校の概要</b>		学校名	青木村 立 青木小 学校	学校長	中上 敬介	児童生徒数	195 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		
		○		ボランティアと学校の情報交換会がある		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	はつらつネットワーク			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
	-			-		地域コーディネーター	6 人	
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定)	4月25日, 10月6日, 11月9日, 1月11日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	はつらつネットワーク事務局	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標		あかるい子 かしい子 たくましい子						
地域と共有された育てたい子どもの姿		青木村を愛する子どもたち ~地域とつながり、広げ、深める~						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		ボランティア登録者人数 18 人 参加者延べ人数 60 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		義民太鼓(7月~9月)		放課後学習支援『寺子屋』(通年)		農作業体験(5月~10月)		
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
青木村の伝統文化について学ぶことを通して、青木村を愛する子どもの育成を進めている。中でも、4学年は義民太鼓に焦点を当て、義民に係る歴史や先人の思いに触れながら義民太鼓を学び、青木村の伝統文化の素晴らしさを感じている。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当学年 4学年</li> <li>・活動場所 義民太鼓体験学習…青木村総合体育館武道館</li> <li>・指導者等 青木村義民太鼓保存会の皆様</li> <li>・学習の成果 義民の思いに触れ、自身と重ねながら義民太鼓体験学習を継続的に取り組み、その成果を運動会にて披露した</li> </ul>								

学校の概要		学校名	上田市 立 浦里小 学校		学校長	堀内 寛子		児童生徒数	52 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○			ボランティアのリストがある			
			市町村教委		自治会代表		○			ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表		PTA代表	○	○			ボランティアと学校の情報交換会がある	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員					ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		浦里小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター	1 人
					地域住民 学識経験者						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	
会議開催数(予定)		7 回	今年度開催日(予定)	4月8日	7月12日	8月31日	9月9日	12月20日	2月13日	3月17日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)
											具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教頭
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標		自分のよさを切り拓く子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿		「自ら気づき 問いかけ やってみる子ども」 ・五感で情報をとらえ 問いをもつ子 ・解決の見通しをもち 主体的に動く子 ・自分の考えをもち 伝える子 ・なかまの思いに 耳を傾ける子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)			○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	194 人		
										参加者延べ人数	1146 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
		清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
		土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
		人権教育	○	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		メロン苗植え(5月30日)			川遊び(7月21日)			稲刈り(9月22日)				
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
「メロン栽培」 春、2年生は、「いろいろな野菜が作りたい。メロンも作りたいなあ」と願いました。そこで子どもたちは、野菜・米作り隊のみなさんに、相談してみました。すると、「プランターでもメロンを作れるから作ってみる？」と、3年生にもメロン栽培指導をして下さっているKさんが、声をかけて下さいました。2本ずつ、2つのプランターに植えて、害虫が来ないようにネットで囲いました。咲いた雌花の数を数え、教えてもらったように13番目の花だけに授粉をしました。夏休み後、メロンが2つとれました。おいしくいただいた後、Kさんにお礼を伝えようと、手紙を書きました。「もっと最初から自分の手で育ててみたい」「もっとたくさんメロンを収穫したい」「もっと甘いメロンにするにはどうしたらいいのかな」などと、プランター栽培で作ったからこそ新しい願いや問いが生まれてきました。Kさん宅に手紙を届けに行った際、自分たちの思いを伝えた子どもたち。三学期になったら、自分たちの手で種まきをさせてもらう約束をし、笑顔で学校に戻りました。本校で目指している探究的な学びにつながる気づきがありました。												

学校の概要		学校名	上田市 立 川西小 学校		学校長	酒井 和彦		児童生徒数	260 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		川西小学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			
		地域コーディネーター	1	人	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						人	
会議開催数(予定)		5	回	今年度開催日(予定)	4月27日、6月9日、9月22日、11月29日、2月20日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標		自ら考え、ともに高め合い、かがやく子										
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 進んで体を鍛え、明るく元気よく活動する子	2 自らねばり強く考え、課題を解決しようとする子	3 笑顔であいさつをし、友達を大切に助け合える子	4 自分から進んで物事に取り組む子							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○	
2	学校運営への必要な支援について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	41	人	ボランティア登録者人数	450	人	参加者延べ人数		
3	地域の実情や課題について	○	4	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	41	人	ボランティア登録者人数	450	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	41	人	ボランティア登録者人数	450	人	参加者延べ人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	41	人	ボランティア登録者人数	450	人	参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
		清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
		人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		田んぼで泥遊び2年(5.23)			田植えの後に温泉水4年(5.30)			アサギマダラにマーキング6年(9.26)				
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「田んぼ」を舞台に多くの児童、地域の方々、保護者が関わっている。</li> <li>・田んぼの代掻き前後で、2年生が生活科の時間に泥遊びをした。最初は怖がったり、汚れるのを嫌がっていた児童も次第に田んぼをプールのようにして、泳いだり、追いかけたりと泥の感覚を堪能していた。また、そこで生き物を発見したり、後日、生き物探しに来たりするきっかけとなっていた。</li> <li>・苗床を育てていただき、説明を聞いて、4年生が総合的な学習の時間に田植えをした。苗の量、深さ、間隔などの方法を学ぶだけでなく、昔から続く稲作文化の一端を担い、日本の原風景を作っていることにも思いを寄せる児童がいた。田植えが終わると、地域にある室賀温泉(ささらの湯)から約200リットルの温泉水を持ってきていただき、手足顔を洗った。川西の地域ならではの連携した活動になっている。9・6には案山子作りを共同で行うと共に、困った生き物を全滅させるのではなく、共存していく大切さについてもお話をいただいて学んだ。今後、収穫・販売・試食会(可能なら)なども行う予定である。</li> <li>・田んぼの周辺には、アサギマダラの食草のフジバカマを昨年のほぼ2倍移植していただいた。そのおかげで、アサギマダラが集まりはじめている。捕まえたチョウはマーキングし、どこかの地域とつながることを夢んでいる子どもたちが増えてきている。</li> </ul>												

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 城下小 学校	学校長	竹内 仁一	児童生徒数	416 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
				市町村教委		自治会代表			
				公民館代表		PTA代表			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			
						ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	城下小学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
				地域住民、ボランティア代表		地域コーディネーター	1 人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月16日 11月17日 2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
						地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	まなび きたえ ともにのびる子 ～一人一人が輝く城下小学校～								
地域と共有された育てたい子どもの姿	(1)自ら求めて学び合う子ども (2)明るくたくましい子ども (3)友や地域と温かく関わる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 115 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	城下 あいさつ・声かけ運動(7月1日)		稲刈り(9月26日)		環境ボランティア(9月21日)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>									
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
年に3回、地域の皆様、学校職員、高学年児童で「城下あいさつ・声かけ運動」を行っている。主催は、「城下まちづくり未来会議」「城下地区社会福祉協議会」による「城下あいさつ・声かけ運動実行委員会」である。城下小学校区の各地区で自治会の方が子どもたちに温かい挨拶をしてくださる。地域の方に声をかけていただき、児童は地域の方との心のつながりを感じ取っている。また、高学年児童も一緒に活動に参加させていただき、挨拶に対する意識が高まっている。児童同士そして地域の方との挨拶の交流により、豊かな人間関係の育成につながっている。									

学校の概要		学校名	上田市 立 南小 学校	学校長	山邊 久史	児童生徒数	657 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○	会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
			市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	南小学校 学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
	会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	第1回2022/6/17 第2回2022/11/4 第3回2023/1/26		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>										
学校教育目標	「つよく・たくしく・あたたかく」									
地域と共有された育てたい子どもの姿	様々な地域の文化や人・物・事と接し、体験した思いを振り返りながら地域のへの愛着を育む子どもたち									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について	○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3	地域の実情や課題について	○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 47 人 参加者延べ人数 105 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4							
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	読み聞かせ(R4.6.27)		1年カイコを育てよう(R4.7.6)		代掻き(R4. 5. 26)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
5月31日の午前中に学校田で、ボランティアの田中さんら他3名と5学年児童116名で田植え体験活動を行いました。最初に田植え機で植える様子を見学し、回転する人の手のような部品が一気に4列ずつ植えていくのを見て、「すごい～はやい!」「きれいに植えられる」「よく3本ずつとっていかれるなあ」なんて声が上がりました。そのあとは2クラスずつ分かれて手植えの開始。機械で植えてある続きからそれぞれ後ろに下がりがりながら苗を植えていきました。最初は泥の感触に「きゃ～」「ぐにやぐにやしてる」と戸惑っていましたが、だんだん慣れて手際も良くなってきました。初めてやる子がほとんどでしたが、いい稲が育つように、もち米がいっぱいとれるように思いを込めて植えることができました。その他、代掻き、畦シート張り、草取り、稲刈り、脱穀を体験し年間通じて農家の苦労や工夫を学ぶことができました。機械と手作業の作業の違いから昔の農家の大変さを感じ、改めてお米ができるまでには、長い行程と大変な労力が必要だと言うことを体感することができました。普段、何気なく食していたお米に対する思いが、大きく変わり感謝の思いが芽生え始めた体験学習となりました。										

学校の概要		学校名	上田市 立 川辺小 学校		学校長	長井 裕之		児童生徒数	504 名											
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある														
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)														
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある														
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある														
名称	川辺小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民、ボランティア代表、地域保育園代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人											
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)													
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)		5月13日 7月15日 11月17日 2月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民											
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域住民代表											
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																				
学校教育目標		たくましく かしこい子どもの育成																		
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の「ひと・もの・こと」に親しんだり触れ合ったりする活動を通して、 ・友だちの考えを大切にし、主体的に学ぶことができる。 ・明るく、はっきりと挨拶ができる。 ・健康で、元気に活動することができる。																		
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況														
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2	学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3	地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○											
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 21 人											
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		50 人											
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		○		国際理解		○		託児		○		○		○		○		○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例		○		○		○		○		○		○		○		○		○	
																				
		読み聞かせの会(6月～2月)		いのちの学習(10月)		外部講師によるクラブ支援(5月～11月)														
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
<p>・「やさいもころりん」の方による読み聞かせの会が6月～2月までの間に全学年、各学級ごと計18回行われた。読み聞かせを行っていただいている「やさいもころりん」は、本校の保護者、卒業生の保護者で結成されており、毎年新しい会員を募集してきている。今年度、読み聞かせの会に保護者や川辺小学校CS運営委員、他の読み聞かせ団体の見学者も企画し、毎回数名の見学者も参加して会が行われてきた。</p> <p>読み聞かせの内容は、各学年に応じて変えていただいており、児童への読み聞かせの会開催前に数回の練習を行っていただいている。そのため各会とも時間いっぱい充実したお話の会となっている。</p> <p>本校の多くの児童は、各学級で設定している週一回の読書時間以外の休み時間にも図書館を利用している。お話の会が、児童の読書への意欲や関心が高まることにつながっていると考えられる。</p>																				

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 中塩田小 学校	学校長	大鷹 宏彰	児童生徒数	513 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
				自治会代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
				PTA代表			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	
名称		中塩田小学校 学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)	
				歴代PTA会長 地域保育園長 学習支援ボランティア 地域スポーツクラブ代表		地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 令和4年7月13日(水)実施 第2回 令和4年11月22日(火)予定 第3回 令和4年2月9日(木)予定	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 教頭	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		○よく考え、工夫する子ども ○人やものにやさしい子ども ○進んで取り組み、やりぬく子ども					
地域と共有された育てたい子どもの姿		①よく聴いて、自分の思いを表現できる子(話す、かく) ②自分から挨拶し、相手も大切にする子(温かい言葉・思いやり) ③友と協力し合い、作業や活動に根気よく取り組む子(黙々活動)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 60 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動		給食	
				総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練)		遠足・登山	
				水泳指導 ○		休み時間	
						放課後教科・体験学習	
						キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		チャレンジタイム(学習支援ボランティア)(通年)		低学年の外国語(学習支援ボランティア)(通年)		水泳指導(学習支援ボランティア)(6, 7月)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>							
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
本校では特色ある教育活動として、朝の活動(8:25~8:40)を通年行っているが、毎週2回(火と木)は、国語と算数の基礎学力の定着を図るために「チャレンジタイム」を実施している。ドリル学習を中心に行っているが、学習支援ボランティアの方には通年で各学級に入ってもらい、児童が取り組んだ解答の○付けをしていただいている。その間、学級担任は、児童への学習指導に専念することができ、特に、低位児童に対して、手厚い指導をすることができている。本年度は、チャレンジタイム自体は実施しているが、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学習支援ボランティアによる○付けボランティアがなかなか実施できない状況であったが、レベルの引き下げに合わせてご協力いただき、充実したチャレンジタイムの時間を送れている。							

学校の概要		学校名	上田市 立 東塩田小 学校			学校長	川口伸哉		児童生徒数	220 名										
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある												
				市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)												
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある												
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある												
名称	運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人										
				地域住民 学校ボランティア代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人										
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		①5月20日(金) ②10月5日(水) ③2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)											
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館次長											
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																				
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく																			
地域と共有された育てたい子どもの姿	○児童が、社会で安定して生活出来るための学力向上 ○学ぶ喜びを体感できる児童の育成 ○夢や希望の持てる児童の育成					○地域を愛し地域行事を大切にする児童の育成 ○自分を大切にし周りの人も大切にできる児童の育成														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況														
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○										
2	学校運営への必要な支援について			○																
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○										
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)												
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 20 人 参加者延べ人数 約100 人										
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間	
	清掃				ICT				学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育				国際理解				託児											
	学校・家庭・地域の協働した取組例																			
																				
		読み聞かせ(5月～月1回)				クラブ活動(年3回)						松茸給食(10月5日)								
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>																				
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
<p>クラブ活動へのボランティアによる支援は、コロナ禍以前、バドミントン、手芸、料理、華道、茶道等多くの活動にサポートが入り、専門性のあるきめの細かな指導や児童との交流が図られていた。しかし、コロナ禍で児童と地域の方々との接触が難しい状況が生まれると、一時的に関係が途絶えてしまった。本校の茶道・華道クラブの支援に昔から熱心に取り組んでくださったHさんは、クラブの支援ができない状況の中で、どうしたら学校のサポートができるのかを考え、校内を生け花で彩る取り組みをしてくださった。花は教職員や児童の心を癒すばかりでなく、Hさんを含めたボランティアの方々を忘れない存在にもなった。</p> <p>今年度、クラブ活動へのボランティア支援を再開したが、Hさんが担当する華道・茶道クラブでは、「H先生、お花をいつもありがとうございます」「あのきれいなお花、Hさんが活けてくれていたんだね」とさっそく児童からの言葉がけがあり、いい関係の中でスタートすることができた。Hさんからは、「学校や子どもたちから元気がもらえる。学校に来られるだけでうれしい」と言われている。</p>																				

学校の概要		学校名	上田市 立 塩田西小 学校			学校長	井上 靖子		児童生徒数	245 名							
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある									
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある									
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称		塩田西小学校信州型コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 課外クラブ外部講師 有識者				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月6日 10月21日 3月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)							
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)									
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																	
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく															
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組む子ども</li> <li>・人やものを大切にすること</li> <li>・心と体をきたえる子ども</li> </ul>															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)									
								4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 98 人 参加者延べ人数 250 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間					
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解				託児									
		学校・家庭・地域の協働した取組例															
		コカリナ指導(6月27日)		たねぷるじえくと(7月8日)										高原学習(9月15日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
【コカリナ指導】 塩田西小学校の校歌を作った黒坂正文さんがコカリナを日本に初めて持ち込んだ方だという縁で、代々塩田西小学校の6年生はコカリナの体験をしてきています。今年も21年目になる6年生のコカリナ指導が行われました。コカリナの指導は、例年指導していただいている大川先生をはじめ、阿部先生、代田先生にいただきました。先生方が吹く、澄んだきれいな音色を聞いた後、6年生も練習を始まりました。コカリナは低いドから高いレまでの音域しかありませんが、塩田西小学校の校歌もその中で納まるように作曲されており、コカリナで演奏することができるそうです。これから少しずつ練習を重ね、発表できる場を設けていきたいと考えています。コカリナの指導を通じて、コカリナが吹けるようになるだけでなく、学校の歴史を知ったり発表の場を設けることへとつながり、児童が主体的にかかわり、表現力を高めることにつながりました。																	

学校の概要		学校名	上田市 立 西小 学校		学校長	須山 千才		児童生徒数	364 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○		ボランティアのリストがある	
				市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	西小コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				学校支援ボランティア代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月17日		2月22日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育指導員	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	「進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子」 かしこく やさしく たくましく										
地域と共有された育てたい子どもの姿	・問いをもち友と関わりながら追究する子 ・相手のことを考えて行動できる子 ・心身ともに健康で粘り強く取り組む子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 73 人 参加者延べ人数 185 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
	太朗山登山(4月28日)			クラブ活動(5月～10月)			放課後学習室(5月～2月)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<b>【クラブ活動】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の活動時間を90分として、地域の方を講師にお迎えして全6回のクラブ活動を行った。(参加は4年生～6年生)</li> <li>・児童の希望から成立した13クラブ中、8つのクラブの講師を地域の方をお願いすることができた。運動クラブは近隣の大学生と一緒に活動してもらっているが、感染警戒レベルの関係で今年度は見合わせるようになった。</li> <li>・クラブ発足時の打ち合わせ会を地域の方と各クラブの代表児童・担当職員3名で行うので、児童の思いを指導者が直接聞き取って、活動計画に取り入れ活かして下さることがとてもありがたい。</li> <li>・児童は、イラストアートやフラワーアレンジメント・手芸などの技術を教わり、自分の作品が完成していくことに喜びを感じて取り組んでいた。</li> <li>・将棋やけん玉・パソコンクラブでは、今まで知らなかった専門的な内容を教えてもらったことで、各自の力量を高めることができた。</li> <li>・サッカーや卓球クラブでは公式なルールや技能を覚えてもらえてうれしいと、自分の高まりを感じながら活動に熱中していた。</li> <li>・地域の方には子どもを直接褒めていただいたり、優しい笑顔で会話をしていただいたりして、児童の自己肯定感が高まる時間になっている。</li> </ul>											

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 清明小 学校	学校長	石川 武	児童生徒数	304 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○ 自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	清明小学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 元学校評議員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
	地域コーディネーター		1 人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月24日(火)、11月22日(火)、2月9日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域学校支援員		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子ども」 心も体もたくましい子ども 自分や友だちを大切にできる子ども 自ら学ぶ子ども							
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域への関心や地域行事への参加率の高い子どもたちの実態と学校周辺の豊富な地域素材や社会資源がある地域の実態を生かし、総合的な学習の時間等により展開される「ふるさと学習」で地域と連携した多彩な活動や協働的・探究的な学びを通して、自己実現の礎を築くとともに、自己肯定感もてる児童の育成を目指す。							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	107 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		ボランティア登録者人数 参加者延べ人数	210 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○ 総合的な学習の時間支援	○ コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児			
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
・現在の6年生が1年生の時に学校のシンボルであった神樹の木が台風で倒木した。昨年度の児童会長から「第二の神樹の木」となるシンボルを作してほしいという願いを受け継ぎ、今年度の6年1組の児童が中心になって「神樹の木プロジェクト」(総合的な学習の時間)に取り組んでいる。「神樹の木」と子どもや地域とのつながりを学校内にある昔の写真や記念誌、地域の方へのインタビュー等で調べたり、倒れた神樹の木の幹でベンチづくりや各学級用のオブジェづくりなどを考えたり、学校運営委員会や地域の建設業者の方、PTAの皆さんの協力を得て、活動が進んでいる。また、神樹の木に代わるシンボルツリーを何にするかを考える際に、地域の樹木医の方に様々な木についての説明を受け、いくつかの木に絞って全校児童に植樹するシンボルツリーのアンケートを作成する活動へと発展している。この活動を通して、子どもたちは神樹の木に寄せる様々な人の思いに触れ、使命感をもって活動に取り組み、少しずつ地域ぐるみの活動へと動き出している。								

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 北小 学校	学校長	上野 勝裕	児童生徒数	422 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		PTA代表		○					
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	北小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		ボランティアのリストがある					
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア総代表</li> <li>・学習ボランティア代表</li> <li>・クラブ活動講師代表</li> <li>・読み聞かせボランティア代表</li> <li>・おやじの会代表</li> <li>・安全見守りボランティア代表(民生委員長)</li> </ul>		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月18日 10月6日 2月15日		地域コーディネーター 1 人					
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	「花とみどり笑顔の学校」～10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちをいっぱいいることのできる子ども</li> <li>・自分の願いや疑問をもち、じっくり考える子ども</li> <li>・体いっぱい遊ぶことのできる子ども</li> </ul>										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋でも可)		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	ボランティア登録者人数 135 人 参加者延べ人数 250 人		○			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		地域講師によるクラブ活動(5月～11月)		フラワーロード花壇の苗植え(6月9日)		大人の火遊び講座(9月21日)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>								(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・今年度は、児童への支援をしていただくだけでなく、地域の方自身にも学校を「学びの場」「集いの場」としていただける活動を提案して、おこなった。(コミュニティルーム前の芝植え作業、救急法講習会、消しゴムはんこ講座、大人の火遊び講座、剪定講座等)地域の方同士、地域の方と教職員とのつながりを広げることができた。また、地域の方にとって、学校がより身近なものになり、より多く学校に足を運んでいただけるようになった。											

学校の概要		学校名	上田市 立 塩尻小 学校			学校長	甘利 尚之		児童生徒数	185 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
名称		塩尻小 地域応援団				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 営農組合長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月24日実施 9月21日実施 1月25日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		思いやりのある子ども じょうぶな子ども よく考える子ども 最後までやり抜く子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		元気よく挨拶する子ども 友だちと仲良く遊ぶ子ども 学習に進んで取り組む子ども 地域の自然や伝統を大切にすることの姿 地域の「ひと」「もの」「こと」を大切にすることの姿											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3 地域の実情や課題について		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 38 人 参加者延べ人数 15 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会			
		清掃				ICT				学習ボランティア			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携			
		人権教育				国際理解				託児			
										クラブ、部活動		給食	
										休み時間			
										総合的な学習の時間支援			
										コロナウイルス対策の消毒・清掃			
										防災学習(避難訓練)			
										遠足・登山			
										体験学習			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		1年ゆうすげの里自然観察(通年)				4年田植え(6月10日)				4~6年クラブ活動(6~11月)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動や1年生活科の学習では、地域ボランティア清水さんの協力を得て、季節ごとに「ゆうすげの里」へ出かけ、自然観察活動を行っている。植物や昆虫の採集も行わせてもらい、桑の実ジャムを作って試食したり、カブトムシ等の飼育を行ったりした。地域の豊かな自然に触れ、自分たちの住む地域のよさに触れることができた。</li> <li>・4年生の米作り学習では、毎年上塩尻営農組合さんに協力していただき、育苗から脱穀まで、農作業の指導や稲の管理を行っていただいている。作業を体験したことで、米が食べられる状態になるまでにはたくさんの作業があることや、一粒の米を無駄にしない気持ちを持つことができた。</li> </ul>													

学校の概要		学校名	上田市 立 東小 学校		学校長	網干 直人		児童生徒数	568 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		東小学校 学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 民生児童委員代表 親父の会代表 読み聞かせボランティア代表 学校支援ボランティア代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		令和4年 6月16日(木)・・・コロナ拡大のため中止 令和4年10月19日(水)・・・ 令和5年 2月22日(木)・・・開催予定				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)			
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 公民館主事			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域に支えられ、地域とつながり、ふれあいの中で育まれる子どもたち											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
								4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 55 人 参加者延べ人数 75 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解 ○		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例								高学年 クラブ活動 6月27日		3年生 筒けん体験 9月6日		集中日本語教室「にじのかけはし」	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
・本年度、3年生は「総合的な学習の時間」の取組のひとつとして、「けん玉」を楽しんでいる。地域にいるプロのけん玉師を講師に迎え、たくさんある「けん玉」の技を見せていただき、驚くとともに、「けん玉」への憧れを強めた。教えていただいた後、子どもたちが「けん玉」に取り組む意欲的な姿は素晴らしかった。その講師の方から「筒けん」という「けん玉」があることを教えていただき、「筒けん」への興味関心を強めた。「自分だけの『筒けん』を自分の手で作ってみたい」という気持ちが強くなり、講師に作り方を教えていただく機会も設定した。日本の伝統的な遊びに触れることができただけでなく、地域のプロから見たり聞いたりして学んだことを通して、興味関心を膨らませ、活動の意欲につながっていった。3年生の子どもたちは、今でも教室で「けん玉」や「筒けん」を楽しむ姿が見られる。													

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 神科小 学校	学校長	堀内 絹予	児童生徒数	682 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表				
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員				
		○		学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	神科小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入						
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)						
地域コーディネーター		1		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 6月10日(金) 第2回12月7日(水) 予定 第3回2月21日(火) 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
						地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
						お助けっ十有志隊(学校支援ボランティア)				
学校教育目標		笑顔輝く楽しい学校 やさしさ かしこさ たくましさ								
地域と共有された育てたい子どもの姿		やさしさ: 体験を軸に、協働性や主体性のある児童の姿。お互いの良さや特徴を認め合う姿。いじめのない支え合う姿。 かしこさ: 学習(基礎基本)がしっかり身につく児童の姿。安心して楽しく学校生活を過ごせる児童の姿。 たくましさ: 進んであいさつができる姿。進んで体育や外遊びをし、体力向上を図る姿。清掃等に進んで取り組む姿。音楽や芸術を楽しむ姿。								
				<b>地域と協働した活動状況</b>						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	60 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		ボランティア登録者人数	30 人		
						参加者延べ人数		30 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	○	
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		課外クラブでの指導(10月18日)		1年生七夕まつりお礼の会(7月7日)		お助けっ十有志隊ボランティアルームオリエンテーション(6月16日)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>										
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 課外活動(管楽器クラブ)では、お助けっ十有志隊の方に、毎朝の練習で支援・指導をしていただいた。子どもたちは意欲的に楽しく活動に取り組むと同時に、演奏技術も向上した。交歓演奏会や音楽会等の行事では、自信をもって演奏発表することができた。(管楽器の専門的なノウハウを持っていらっしゃる方がおり、児童も職員も活動を通して、大いに学ぶことができ、大変ありがたかった。)										
○ 各学年の行事(七夕まつり・焼き芋大会等々)では、活動に必要な準備(竹・竹飾り、焚火に必要な薪等)や当日の運営への支援等を率先してやってくださった。スムーズにまた安全に活動ができるよう、様々な面から支援・援助をいただいた。										

学校の概要		学校名	上田市 立 豊殿小 学校		学校長	高見澤 津久美		児童生徒数	213 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	ガンバ応援団			[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				棚田保全委員会会長 自治センター長 主任児童委員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月26日・10月25日・1月27日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	心豊かで 向上心をもち 実践力のある 子どもの育成											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分の言葉で語る子ども よりよくなるよう努力する子ども 行動にうつす力のある子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	70 人
										参加者延べ人数	1000 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	○			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
稲倉の棚田(令和4年度 農林水産祭 むらづくり部門「天皇杯」受賞)で、総合的な学習に3、5年生が取り組んでいます。稲倉の棚田の保全活動を推進している「棚田保全委員会」の皆さんと、「ガンバ応援団」の皆さんに講師になっていただき、それぞれの学年の活動が進んでいます。 3年生は、何回か棚田を探検したあと「虫のすみかづくり」をしたいということになり、カブトムシが卵を産める「すみか」を作りました。 5年生は、田植えから脱穀までの米作りを、棚田で体験しています。 活動や体験から、自然の豊かさや、米作りの苦労を学び、郷土を愛する豊かな心を育むことができています。												

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 神川小 学校	学校長	田中 菜穂子	児童生徒数	505 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	神川小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民 ボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)					
	地域コーディネーター				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月16日、9月26日、2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
						学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
						教頭					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・考える子</li> <li>・心の美しい子</li> <li>・たくましい子</li> </ul>									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わり合って考える子</li> <li>・自他の良さを感じられる子</li> <li>・心と身体をきたえる子</li> </ul>									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	35 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		参加者延べ人数	600 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
				学習ボランティア<支援学級>(10月17日)			クラブ活動講師(9月5日)			田植え(6月10日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>日本語教室と特別支援学級を中心に、ほぼ毎日午前中に、学習ボランティアとして関わってくださっている。日本語教室を利用している児童は、国籍も学年も日本語の習得状況も様々である。そのため、一度に5、6人来室すると、担当職員一人では指導が難しいため、ボランティアの方に来ていただけて大変ありがたい。分からないところを丁寧に教えてくださったり、頑張っている姿を認めてくださったり、子どもたちの学習を支えてくださっている。毎日来てくださるので、子どもたちはボランティアの方に親しみを感じ、担任と同様に信頼を寄せている。そのため、悩みや不安を相談する児童もいる。</p> <p>個別に学習を行う場所はあるけれども、支援が行き届かず手が止まってしまうことが懸念されたが、ボランティアの方が声をかけてくださるおかげで、個に応じた学習が位置づき、児童の学習意欲を継続することができている。また、日本語教室では「できた」「わかった」という達成感を味わうことができている。</p>											

学校の概要		学校名	上田市 立 長小 学校		学校長	川崎 圭一		児童生徒数	125 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
				ボランティア代表 地域住民 民生児童委員会				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)	5月27日(金) 2月3日(木)				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
								具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)		学校支援NPO代表		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	かしこく きよく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	・思いやりのある子ども ・ねばり強い子ども ・よく考える子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 29 人 参加者延べ人数 87 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○		読み聞かせ	○		児童会、生徒会	クラブ、部活動	○		給食	休み時間
	清掃			ICT			学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動	○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)			遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育			国際理解			託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	ふれあい伝承広場(7/12)			読み聞かせボランティア(年間)			米作り(6~11月)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<ul style="list-style-type: none"> <li>月に2回(第2週と第4週の火曜日)朝の活動の時間に1~6年生の各クラスに1名ボランティアの方に入っただき、本の読み聞かせをしていただいている。</li> <li>コロナ禍でなかなか実施することができなかったが、久しぶりの読み聞かせに子どもたちは、楽しそうにお話を聞く姿があった。紙芝居や絵本など、毎回内容を考えて下さり、児童も毎回の読み聞かせを楽しみにしている。</li> <li>6年生に考えてほしい、「ぼくの武器」という戦争の新聞記事の読み聞かせをしていただいた。その後、その話を聞いて一人ひとりが感想を書き、それを読み聞かせをしていただいたボランティアの方に感謝の気持ちと一緒に届けた。読み聞かせを通して、その話しから戦争についてや思いやりについてさらに考えることができた。</li> <li>今までコロナ禍の為読み聞かせの時間がなかなかとれなかったため、自分の好きな本だけを読む傾向にあった子どもたちが、いろいろな本や紙芝居や新聞記事を紹介していただき、子どもたちも本の世界を広げることにつながっている。</li> </ul>												

学校の概要		学校名	上田市 立 傍陽小 学校		学校長	橋詰 文彦		児童生徒数	85 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員				○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		傍陽の子どもを育む会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 民生児童委員 真田駐在所長 学校評議員 消防傍陽分団長 校医 安協傍陽支会長 地区育成会長 長寿会長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 6月15日(中止) 第2回 9月 9日(中止) 第3回 2月 8日(予定) ※CS運営委員を兼ねた学校評議員会は2回開催済		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		ここにこ笑顔・どきどき挑戦・どんどん響き合う 傍陽の子											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域を知り、人とふれあうことで、感謝や思いやりを持ち、地域を愛する子どもを育てたい。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		3 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人 参加者延べ人数 10 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間 ○	
		清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		地元のスーパー見学(9月)				信州型CS運営委員会準備会(9月)				音楽会で一本松の歌を発表(11月)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内音楽会で、6年生が合唱曲としてオリジナル曲「山の大きな木〜一本松〜」を披露した。この曲は、6年生が以前に遠足で訪れた市天然記念物のアカマツ「穴沢弾正塚の松」がテーマ。地元保存会の代表の方から、毎年行われてきた保存会の会合や、600年もの風雪に耐えてきた松の歴史を提供していただいた(写真を見せていただいた)。ふるさとの松の木のように強く優しくたくましく育ててほしいとの願いを担任が作詞し、音楽専科が作曲した。音楽会当日はこの思いのこもった歌を歌い上げた。保存会の方へは新型コロナウイルス対策のため生の歌はお聴かせできなかったが、写真や前日に新聞で紹介された記事、歌が録音されたDVDを贈り感謝の意を伝えた。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で、地域との協働で取り組むための組織、信州型CS(傍陽の子どもを育む会)の運営委員会の組織再編化を進めた。本年度は9月に準備会を行い、来年度からの再出発に向け準備を進めている。</li> </ul>													

学校の概要		学校名	上田市 立 本原小 学校			学校長	柳原 孝一		児童生徒数	217 名									
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				ボランティアのリストがある											
				市町村教委		○		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある							
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれ的人数を記入)		地域コーディネーター		1 人							
				前年度PTA会長 前年度PTA副会長 PTA顧問 見守り隊長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)									
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5/26 9/1 11/10 2/10		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)									
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																			
学校教育目標		なかよく たくましく かんがえて																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を愛し、自分が好きで、人にやさしく思いやりのある子ども</li> <li>・粘り強く考えられる学習意欲の高い子ども</li> <li>・堂々と挨拶や考えを言えたり、自分に自信を持って取り組んだりできる前向きな子ども</li> </ul>																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況													
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○					
												5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
												ボランティア登録者人数		20 人					
												参加者延べ人数		100 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山	
		人権教育				国際理解				託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		5年生田植え(5月23日)				3年生カーネーション農家見学(6月17日)				5年生脱穀(10月4日)									
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
5年生米づくり(田起こし、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀に至るまでの一連の米作りの活動)																			
・ボランティアの農業指導により準備から諸活動までの流れの説明や児童の活動の補助をしていただく。																			
・かつて手作業で行ってきた作業を体験することで、米づくりの苦労や大変さを実感するとともに、現在使われている農機具を実際に見たり体験することで、より効率化された作業への理解が深まった。																			

学校の概要		学校名	上田市立菅平小学校			学校長	水上 淳一		児童生徒数	60名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		ボランティアのリストがある			
		市町村教委				自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	菅平学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 長寿会長、同窓会長、スキークラブ長、地域有識者、地域ボランティア(読み聞かせ)				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1人
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)							
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月24日(参集せず書面決議)、10月25日、2月28日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		「郷土を拓く大地の教育」 めざす子どもの姿 「協働して目の前の問題を解決していくことができる子ども(相手意識をもった自立した学習者)」									
地域と共有された育てたい子どもの姿		「ふるさと菅平に学び、郷土に生きる人材の育成」 地域との交流を通して、菅平ならではの本物体験・感動体験を味わいながら、各教科で身につけた資質・能力を活かして探求的に学ぶ児童生徒。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について					2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	0人	
								参加者延べ人数	10人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	とうもろこしづくり農業指導(高学年)(6月17日)			伝承広場(低学年)(7月20日)			地元の商店前でとうもろこし販売(全校)(8月31日)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>昨年度末、本校のドリームワークス(とうもろこしづくり)の活動反省の中で、地域の方々から「とうもろこしの販売活動・地域のPR活動だけでなく、農業体験をもっと充実させてはどうか」とご指摘をいただいた。子どもたちと地域の方々への願いを叶えるべく「(菅平の)地域の方々(に感謝)をテーマにして今年度の活動が始まった。昨年度まで機械で作業をしていた畑おこしやマルチ張りの一部を手作業にし、地域の方々の指導の下、農業体験の充実を図った。子どもたちは、体力を使う作業が増えたことで農業の大変さを肌で感じ、今までおいしい野菜を作ってくれていた地域の方々に感謝する気持ちが高まっていた様子であった。例年とうもろこしの販売日を年間計画に組み込んでいたが、よりおいしいとうもろこしを地域の方々に食べていただくため、とうもろこしの生育状況をよく観察して、一番おいしく食べられる日に収穫して即日販売する方針に切り替えた。1回目の販売(8月31日)では大変好評で、食べていただいた方から感謝の手紙をいただき、子どもたちも大変喜んでいました。しかし、2回目(9月2日)3回目(9月8日)と販売日が後になるにつれて、最善の収穫期がズレたことによる味の変化が目立ってしまった。特に最終日は「この味ではお金をいただくわけにはいかない」と子どもたちが判断し、無料で配布する方針に変更された。ドリームワークスの活動はまだ続いており、反省点がいくつか見えてきたが、より子どもたちが主体的・対話的に学ぶことができる活動を深めていきたいと感じている。</p>											

学校の概要		学校名	上田市 立 丸子中央小 学校		学校長	吉澤 基		児童生徒数	429 名													
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																						
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある														
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)														
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある														
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある														
名称	地域連携(CS)委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人										
				旧学校評議員 登下校見守り隊代表 学校近くの商業施設の代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人								
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)	第1回 6月1日(木) 第2回 2月2日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民														
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)																
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																						
学校教育目標		かしこく やさしく ひたむきに																				
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸子の地域の自然、歴史、文化、産業などを学び、ふるさとのよさがわかる子ども</li> <li>・丸子の地域の人を知り、未来に向かって地域を大切にすること</li> </ul>																				
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校運営への必要な支援について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○												
3 地域の実情や課題について				4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○												
								4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 85 人 参加者延べ人数 120 人												
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間		○	
	清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		○		国際理解				託児													
	学校・家庭・地域の協働した取組例																					
				畑づくり(6月23日)				コミュニティルーム(7月21日)				生け花クラブ(9月27日)										
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>																						
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>																						
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																						
<p>2年生の畑の活動では、地域コーディネーターの方が中心となり、地域の直売所である「あさつゆ」の方々やコミュニティルームでの活動をしていただいているボランティアの方々などが協力して下さった。「子どもたちに収穫の喜びを味わってほしい」という思いをもってくださっており、土づくりや苗の準備など、学校と連携を図りながら、活動がよりよく進むように環境を整えて下さった。</p> <p>子どもたちが育ててみたい野菜を事前に聞き取り、ミニトマト・キュウリ・枝豆・スイカ、そして昨年度大豊作だったトウモロコシも栽培した。日々の水やりを中心に、子どもたちは熱心に活動を行うことができた。また、肥料まきや誘引、防獣ネット張りなど、子どもたちだけでは行き届かないところを、ボランティアの方々が一緒に作業してくださり、子どもたちは、畑づくりのおもしろさや収穫の喜びを味わうことができた。</p> <p>収穫後、一緒に畑じまいの活動をしたり、「感謝の気持ちを伝えたい」と、ボランティアの方々に手紙を書いて、気持ちを伝えたりなど、自ら地域の方々とかかわろう、つながろうという思いをもつこともできた。</p>																						

学校の概要		学校名	上田市 立 西内小 学校		学校長	塩川 和泉		児童生徒数	22 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	西内小学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 4 人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月2日(月) 7月6日(水) 11月18日(金) 2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	知恵とねばりと思いやり										
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域で子どもと大人がともに楽しく学びたい。 地域のことを学び、子どもも大人もともにそのよさを知りたい。 地域の子どもと大人がともにかかわり合い、関係を広げ深めたい。										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 93 人 参加者延べ人数 42 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児	○					
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>本校の特色ある教育活動のひとつである「登り窯活動」。約30年の歴史を持つ伝統的な活動となっている。1月に行われる「窯焚き」に向けて新年度当初から大量の薪を確保する活動が始まる。5月のPTA作業とあわせて児童や地域ボランティア、西内クラブ(地域の陶芸クラブ、本校のボランティア組織として登録している)の方々と山からアカマツの倒木を玉切りしたものを選び、薪を割り、薪置き場まで運び上げた。この活動は年間通して児童、保護者、ボランティア、学校職員が行っている。また、作品作りや窯焚きは、地域の陶芸家の全面的な協力のもと続いている。登り窯には、児童のみならず、来入児、地域の焼き物クラブの皆さんなど多くの人々の陶芸作品が収められる。学校を開放した陶芸教室に地域の方々や保育園児が訪れ、粘土と向き合う。児童にとっては地域の歴史を体感したり家族以外の様々な人との交流を生み出す場となっている。</p> <p>また、総合的な学習を縦割りで3チーム(登り窯、金管、地域自然)に分かれて学習をはじめた。登り窯チームは、地域の講師を招いて本講の登り窯の歴史や作品づくりを学び、地域自然チームは、学校林のアカマツや転園記念物のしだれ栗について学んだ。</p>											

学校の概要		学校名	上田市 立 丸子北小 学校		学校長	滝澤 博子		児童生徒数	339 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある			
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		丸子北小コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 安全確保支援代表、学習活動支援代表、 学校行事支援代表、読書活動支援代表、 環境整備支援代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月16日(木) 11月21日(月) 2月6日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地区民生委員会長・元校長	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良く助け合う子</li> <li>・進んで学び 自分の考えが言える子</li> <li>・最後までやり抜く子</li> </ul>									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分やまわりの人を大切にすること子ども</li> <li>・しっかり考え、自分から動ける子ども</li> <li>・力を合わせて、粘り強く追究する子ども</li> </ul>									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2 学校運営への必要な支援について		○		3 2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
3 地域の実情や課題について		○		4 3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		5 4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		89 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		6 4				参加者延べ人数		68 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
		清掃				ICT				学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		○		国際理解				託児	
										給食	
										休み時間	
										総合的な学習の時間支援	
										コロナウイルス対策の消毒・清掃	
										防災学習(避難訓練)	
										遠足・登山	
										キャリア教育(職場体験を含む)	
										ボランティア参加者延べ人数	
										89 人	
										参加者延べ人数	
										68 人	
										ボランティア登録者人数	
										89 人	
										参加者延べ人数	
										68 人	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアグループ(にじいろ文庫)による読み聞かせ活動の実施。</li> <li>・今年度もコロナウイルス感染警戒レベルが高い時期が多く、その予防のため地域との協働活動への取り組みにはなかなか難しい側面があった。しかし、感染予防に対する経験値もあがってきたこともあり、その時々の感染状況により、読み聞かせ支援グループの皆さんが、各教室訪問による読み聞かせを全校一斉に実施したり、校内テレビ放送を活用して直接同一空間にいない工夫をしたり、同一教室でも距離を置いてICTを活用しての読み聞かせを取り入れたりしてくださった。できるだけ実際に顔を合わせて場の雰囲気や共有することにより、臨場感のある読み聞かせを体験させていただき、地域の方々に見守られていることを子ども達も実感し、安心できる機会になった。</li> <li>・また、本校では朝の読書活動を行っていることに併せ、この読み聞かせを通して、新しい本との出会いを得たり時々のテーマ(人権など)による本を知ったりすることで、子ども達の読書活動が豊かなものになっている。</li> </ul>											

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 塩川小 学校	学校長	望月 秀明	児童生徒数	164 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		自治会代表 ○	
				公民館代表		PTA代表 ○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員	
塩川小学校学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
名称				地域住民代表		地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月16日(木) 11月18日(金) 2月9日(木)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 教頭	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		知識をきわめ 意気をねり ゆかしき心を養う子ども ①学び合い、考えを深め、表現する子ども ②気力を養い、体を鍛え、何事にも粘り強く取り組む子ども ③心を豊かに育み、互いに思いあえる子ども					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら考え、表現し、学習内容をしっかり身につけていく子ども ○体を鍛え、何事にも意欲的に粘り強く取り組む子ども ○豊かな心を育み、互いに助け合い支え合える子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 19 人 参加者延べ人数 70 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
				クラブ、部活動 ○		給食	
				総合的な学習の時間支援 ○		新型コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○	
						休み時間 ○	
						放課後教科・体験学習 ○	
						キャリア教育(職場体験を含む) ○	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		放課後スクールによる宿題サポート(毎週月・水・金)		ホテルの里の学習とボランティア清掃(6月7日)		高原学習(烏帽子岳登山)(7月6日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○今年度は、昨年度地域と学校を結ぶ場として開設した「ボランティアルーム」の活用を図っていきたくと考えていたが、新型コロナウイルス感染レベルの関係で1学期初め、学校への来校を制限したために、場の活用が進まなかった。また、全体で集まって、ボランティアスタート段階での情報共有・交換の場を制限され、足並みのそろわないスタートになってしまったことが残念だった。運用の具体は、6月にホテルの里の清掃をボランティアの方々と3年生が行った。事前に代表の方からホテルの里のホテルについてお話を聞いた。子どもたちはホテルに興味を持ち、自分たちの地域の生き物についての関心を高めた。ホテルの生態やホテルを見に行く際に、懐中電灯の明かりに気を付けることなどを具体的に学び、自分たちの地域の環境を守りたいと清掃活動に取り組むことが出来ていた。定期的な活動では、英語の授業のサポートボランティア、塩川おはなしの会の方々の読み聞かせや工作等の体験活動、放課後スクールによる宿題への取組のサポートなどを熱心に行っていた。また、学校運営委員の皆さんには、一人一鉢の花の栽培活動で、専業農家の委員の方に種蒔きや栽培のご指導の中継ぎをしていただいたり、クラブや授業で、地域ボランティアの方とともに補助に入っていたり、積極的にサポートの核になっていただいている。							

学校の概要		学校名	上田市 立 武石小 学校	学校長	竜野 正英	児童生徒数	144 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 民生児童委員会委員長 住みよい武石をつくる会から1名 支援ボランティアの方									
名称	武石小学校学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 民生児童委員会委員長 住みよい武石をつくる会から1名 支援ボランティアの方			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人				
	会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	4月25日(月) 10月7日(金) 2月17日(金)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
					具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)						
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	だれにもやさしく 元気よく しっかり学ぶ 武石の子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	「豊かな人間性」良いところを見つけ 「健康、体力」生活を整える 「資質、能力の育成」自ら考え、伝えられる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。								
2	学校運営への必要な支援について	○									
3	地域の実情や課題について	○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 69 人 参加者延べ人数 135 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例	2年ブロッコリー収穫(10/25)		4、5年生「武さやか」を多くの人に届けよう稲刈り(10/11)			2、3年生大豆種まき(7/1)				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
各学年、地域の方の協力を得て、農作業体験や収穫体験をさせていただいている。4、5年生は総合的な学習の時間「武さやかを多くの人に届けよう。(米作り)」を通して、稲作農業の大変さを体験し、自分たちが育てたお米をどのように販売するのか学習を進めている。米作りを始める前に地域の方から食糧生産についてお話いただき、農業と食に対する考え方を見直すきっかけにもなっている。子どもたちは、地域の方や保護者と一緒に手植えや田植え機を使って田植えを行い、稲の消毒ではドローンを使い、稲刈りでは、手刈りとコンバイン作業を見比べるなど、実体験を通して、農業の大変さを感じると共に現代の農業について知る良い機会になっている。販売活動では、地域の方と一緒にエリアトークで宣伝したり、お米の値段の決め方などアドバイスしてもらったり、多方面に渡り協力を得ている。地域や保護者の方の支援をいただき、立派なお米や野菜が育ち、農作物に愛着をもち、丹精込めて作られた米や野菜を食べることで、好き嫌いが減り、給食での残食が減ってきている。また、子どもたちは地域の方の温かさに触れ、ふるさとの特産物を知ることができ、周囲の方々への感謝の気持ちと、武石の良さを感じることで郷土愛が育ってきている。											

学校の概要		学校名	川上村 立 川上中 学校			学校長	金井 勝久		児童生徒数	86 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>														
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	川上中学校コミュニティスクール 郷育運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人			
			・部活動外部指導者 ・読み聞かせボランティア						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	第1回 郷育運営委員会 令和4年6月28日(火) 第2回 郷育運営委員会 令和5年1月24日(火)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元公民館長					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>														
学校教育目標		感受性豊かに 思慮深く 実践する生徒に												
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>自己表現ができ、互いに認め合い、人権を尊重できる生徒。</li> <li>地域と連携し、郷土から学び、郷土を愛する生徒。</li> <li>共同的な「学び合い」を通して、探究の楽しさや面白さを実感できる生徒。</li> </ul>												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について				○									
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		56 人				
								ボランティア登録者人数		10 人				
								参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動		○	給食	休み時間		
	清掃		ICT			学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		○	託児								
				技能実習生との交流会(6/6)				沖縄修学旅行向けシンカレタス学習(10/21)				川上犬の学習(11/10)		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)														
<p>&lt;技能実習生との交流&gt;川上村は人口4000人に満たない村であるが、村の主産業であるレタス栽培のため、春から秋にかけてベトナムやフィリピンなどから来日する技能実習生が約1000人にも上る。中学生たちは、技能実習生のことを親しみを込めて「バイトさん」と呼び、家族のように接して頻りにパーベキューなどを行っている家も多い。しかし、ネットなどで「人権的な問題があるのではないか」という指摘があったことも事実である。実際に、中学生が技能実習生に写メを撮影されて「怖い」思いをしたこともある。そこで、中学校の人権教育主任が中心となり、川上村役場・川上村公民館の協力を得て、今年度初めて「技能実習生との交流会」を行った。当日は、実習生の皆さんにけん玉や太鼓といった日本の文化を体験してもらったり、バドミントンを行ったりした。バドミントンでは生徒と実習生がペアを組んで試合を行い、どのコートでも和気藹々と仲良く過ごす姿が見られた。この交流会は、実習生に対する差別や偏見を無くし、また実習生の側からも中学生と親しくなることができる貴重な機会になったと思う。今後も、人権教育・国際交流・地域連携など観点から、さらに交流の輪を広げていきたい。</p>														

学校の概要		学校名	南牧村 立 南牧中 学校			学校長	神屋 忍		児童生徒数	80 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	南牧中学校サポーターグループの会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年6月3日(済) 令和5年2月3日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独創的な中学生(考える)…知</li> <li>・心豊かな中学生(感動する)…徳</li> <li>・根強い中学生(やりとげる)…体</li> </ul>											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに学習に取り組む課題を解決しようとする</li> <li>・素直で明るく、学年の隔てなく接する</li> <li>・家の手伝いや清掃、緑化活動などこつこつと行う</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 50 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> <b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>・1、2学年合同で行っている八ヶ岳登山宿泊学習(7月19日、20日)に向けての取組。(天候不順の為、本年度は登山は行わず、宿泊学習のみ実施)に向けて、職員下見、予備登山、事前学習に、地域の指導者の方に継続的な支援をいただいた。近年、学校登山の規模が次第に縮小されてきている中、教師は昔の学校登山の指導経験を頼りにする外なかったり、個々の登山経験は持っていたとしても学校登山として教材化することが困難であったり、また若い世代の教師にそうした経験を伝承していくことが難しくなってきたりしている。そうした背景がある中で、南牧村教育委員会社会教育係の職員の尽力を得ながら、地域で登山経験を豊富に持っている方を、生徒の学習の場面にお招きした。職員の下見では、先導するペースや、生徒に触れてほしい地元八ヶ岳の自然の姿についてを实地で教示していただいた。生徒に向けては、学年集会等でバックパックを学ぶ際に、実際にご自身の登山道具を持ってきていただき、登山に当たってのバックパックの基本についてを、実際にモノを見ながら教えていただく機会を得た。またご自身の膨大な写真データから、生徒が辿る道のりの美しい写真を紹介して下さり、地域の山に寄せる生徒の関心を高めていただいた。</p>												

学校の概要		学校名	小海町北相木村南相木村中学校組合立小海中学校			学校長	小坂 寿樹		児童生徒数	112 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		小海町学校運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		子育てサポート小海(小海町ボランティア連絡協議会)小海町社会福祉協議会の方が窓口で						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		7月19日(火) 11月18日(金) 1月23日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		自学自習 思いやりの心											
地域と共有された育てたい子どもの姿		「ふるさとをもっと知ろう 心を寄せよう」 教科学習 清流の時間や、生徒会活動で地域の関わりを大切にし、生徒同士や地域の方々との対話を充実させる。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人		参加者延べ人数 50 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		アルミ缶収集活動(毎週水曜日)		美術館との鑑賞コラボ授業		職場体験学習							
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
生徒会が中心となり、伝統となっている毎週水曜日の朝の「アルミ缶収集」に毎回2~3名のボランティアの方が一緒に参加して下さり、生徒のやりがいとなっている。そのような場面で、気持ちの良い挨拶も交わされている。協力をしてくださるボランティアの方々も生徒と直接関わりコミュニケーションを取る中で、生徒や学校の様子を知り、更に深く関わり生徒を育てていきたいという意識とともに活動しているというやりがいを持っていただいている。													

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久穂町 立 佐久穂中 学校			学校長	小林 秀樹		児童生徒数	260 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	佐久穂町学校運営推進委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月31日 令和4年11月10日 令和5年3月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標	さらなる創造への挑戦												
地域と共有された育てたい子どもの姿	自主:自ら学び続ける子「知」 壮健:たくましく生きようとする子「体」 清明:明るく晴れやかな心をもつ子「徳」 敬愛:人を敬い、郷土を愛する子「情」												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	127	人			
								参加者延べ人数	90	人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食	○	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
		読み聞かせ(5月24日)				佐久穂町の歴史・文化・産業を学ぶ(7月5日)				地域交流企画(10月6日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
・地域交流企画について キャリア教育の活動の1つとして「地域交流企画」と題し、地域の方から学ぶ活動を実施した。本年度は18講座を開設し、約60名の地域の方々に講師としてご協力をいただきました。生徒たちは18講座の中から自分の興味、関心のある講座を選び、当日、地域の方々から実際に教えていただき、体験できることを楽しみにしていた。当日も地域の方々の丁寧な説明と一人一人への支援のおかげで、充実した活動になり、貴重な時間を過ごすことができた。地域の皆さまとの関わりの中で、地域で根付いている活動や地域の取り組みについて新たな発見をすることができた。また、休日などの地域の行事や催事で手伝いをする中学生の姿が増えた。													

学校の概要		学校名	佐久市 立 臼田中 学校			学校長	小林 新治		児童生徒数	283 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		コミュニティスクール推進委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人			
		歴代PTA会長、主任児童委員 臼田公民館館長 佐久平総合技術高等学校副校長 地域の区長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月30日(木)中止 11月11日(金) 2月3日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		歴代PTA会長					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		「信頼される人になる」 ◎疑問を大切に、学力を身につけよう。(知育) ◎優しさを大切に、思いやりの心を育てよう。(徳育) ◎継続を大切に、強い心と体をつくろう。(体育)											
地域と共有された育てたい子どもの姿		～ 地域・家庭・学校で心と力をあわせ、「信頼される人になる」子どもを育てましょう。～ 学校が必要とする教育活動にボランティアとして加わり、生徒の活動を支援していただく『地域の方による学校の応援団』です。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 16 人		参加者延べ人数 19 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		○ 土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		公民館体験5/20				ホリデー自習室9/24				活動名(日付)			
		<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【ホリデー自習室】 平成29年度3学期に試験的に実施し、現在に至っている。コミュニティスクール推進委員長中心にボランティア数名が交代で管理人となり、毎月1回土曜日の午後1時～5時まで、臼田公民館あいびの多目的室を開放し、自学自習に取り組んでいる。平成30年度前半まではなかなか参加者が集まらない状態であったが、徐々に参加者が増え、本年度は、毎回10名前後の生徒が参加するようになっている。開放時間4時間の中なら、いつでも自由に入出入りできるようになっており、そのため自分の都合に応じて参加できる。毎回参加する生徒もいて、ホリデー自習室として位置付いてきている。昨年度から本校卒業生1名が管理人に加わり、地域の人材活用が進みつつある。													

学校の概要		学校名	佐久市 立 野沢中 学校			学校長	松島 恒志		児童生徒数	490 名							
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について											
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				ボランティアのリストがある									
				市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表				ボランティアと学校の情報交換会がある							
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		野沢中学校 コミュニティスクール推進委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民(教育関係の有識者) 区長会長代表者				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人							
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		7月 8日(金) 12月 7日(水) 2月 22日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)							
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																	
学校教育目標		ゆたかに・・・相手を思いやり、大切に生徒 たしかに・・・目標に向かって、努力する生徒 たくましく・・・粘り強く、最後までやり抜く生徒															
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の人々との関わりを通して、地域を見直し、地域の人々の良さを知り、地域に愛着をもつ生徒を育てる活動															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況											
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2 学校運営への必要な支援について				3 地域の実情や課題について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○							
3 地域の実情や課題について				4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 30 人							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について																	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間					
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		新型コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児											
		学校・家庭・地域の協働した取組例		ふるさと学習(10月6日)		職場体験学習(10月6日)		福祉体験学習(10月6日)									
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
【1学年ふるさと学習】地域の伝統文化に触れる学習として毎年位置づいている。今年度は全10講座を設け、各講座10～15名程度の規模の集団として半日の学習をした。地域の方を講師として学校に招いたり、地域の事業所等に出かけている。講師と学校職員との打ち合わせを事前に行い、生徒の実態に合わせ無理のない活動をしている。地域の文化を初めて知ることや学級を超えた学年や職員との交流機会としても位置づいている。学習後は個別のレポート作成を行い、保護者にも展示紹介を行った。生徒の取り組み⇒地域のよさに気づいたり愛着を増したりするとともに、地域の人々の生き方に触れることで、地域の大人への感謝や尊敬の念を持ち、自分の進路等について真剣に考える姿が増えた。学校行事において、地域の方の学校訪問が増えている。日頃から、学校行事や生徒に対する問い合わせや賞賛の声がある。職員の思い⇒地域の皆さんの支援により、学校だけではできない生徒の学びの姿や成長の姿を確認することができ、地域との連携の大切さを感じることができた。																	

学校の概要		学校名	佐久市 立 中込中 学校	学校長	大西 孝一	児童生徒数	348 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	中込中学校コミュニティスクール推進委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月23日(木)</li> <li>11月8日(火)</li> <li>1月27日(金)(予定)</li> </ul>		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	教頭	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	笑顔があふれ、学びと活動がある学校							
地域と共有されたい子どもの姿	<input type="checkbox"/> 違いを認め合える生徒 <input type="checkbox"/> 思いを伝え合える生徒 <input type="checkbox"/> 主体的に生きる生徒							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有されたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有されたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	10 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		参加者延べ人数	150 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	新型コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	託児		資源回収等	○		
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	秋桜祭(R4.9.31~10.1)		まちゼミ(R4.10.24)		放課後学習(R4.10.26~R5.3.1)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>								
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<p>・中学2年生の総合的な学習の時間に行ってきた「職場体験学習」が新型コロナウイルスの影響で生徒が地域に出で行くことができないため、地域の方々を学校にお招きし、「まちゼミ」という形で講座ごとに分かれて実施した。この「まちゼミ」を行うにあたり、地域の商工会議所青年部の皆さんと計画を進め実施することができた。地域の皆さんからは、「中学生と関わりながら自分のやっている仕事を紹介、体験してもらうことで自分の将来について考え、大人になって佐久に戻ってきてほしい」という願いがあり、学校のねらいと地域の方々の願いが一致した活動となった。</p> <p>「まちゼミ」は8講座に分かれており、前半後半で一人2講座を体験することができた。今まで身近な地域の方が行っている仕事について、目を向けることが少なかった生徒がこの「まちゼミ」を通して自分の将来を考え、地域の方々とのつながりを感じることができた。また、講師として頂いた地域の方々には本校の卒業生という方が多く、昔のお話を合わせて聞くことができ、更に地域とのつながりの大切さを感じることができた。</p> <p>来年以降、この活動をどのように位置づけ、地域とのつながりを定着していくかが今後の課題と考える。</p>								

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 浅間中 学校	学校長	高橋 利子	児童生徒数	751 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある	
				市町村教委		自治会代表	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	
名称		浅間中学校 コミュニティスクール推進委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 浅間中学校同窓会 浅間中学校後援会 主任児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定) 令和4年 6月21日(火) 令和4年11月 1日(火) 令和5年 1月23日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		情操高く 知は深く					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○誇り高き浅間中生 … 多様性を認め合い、思いやり、感謝の気持ちちがもてる生徒 ○熱く燃える浅間中生 … 学習・生徒会・部活動に精一杯、全力で取り組める生徒 ○美しき浅間中生 … けじめある行動・元氣よくあいさつができる生徒、清掃に打ち込める生徒					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 50 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		○	
<b>地域学校協働活動の概要</b>							
登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会	
清掃		○		ICT		学習ボランティア	
土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
人権教育		○		国際理解		託児	
クラブ、部活動		○		給食		休み時間	
総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例		職員研修(6月15日)		2年職場体験学習(11月7日)		3年進路講話(先輩の話)(10月18日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>							
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○浅間中学校では、「地域の未来を開く人材育成」をランドデザインの大きな柱の一つとして、保護者・地域と連携し、人間力の向上を目指している。							
○本校では、2年の職場体験学習に向けて、以下のとおり段階的な学習を行っている。							
①プロフェッショナル講座:地域の講師から、「仕事とは何か」「仕事の喜びややりがい」等、講師の仕事に対する思いから学ぶ。(11講座開設)②本校同窓会長であり、地域活性化を推進している阿部さんを講師に職員研修を行い、住民の地域に対する思いを職員で共有する。③ビジネスマナー講座:実際に職場に出て行く前に、働く上での心構えや、社会に出たときのマナーについて学ぶ。④職場体験学習:プロフェッショナル講座講師の仕事に対する思いから学んだこと、実際の体験で学んだことを総合的に捉え、「働く」ことについて自分なりの考えをもつことができる。							
○「学びの連携」を大切に捉え、学区内の小学校および高校等との連携を密にしている。							
①職場体験学習において、学区内の4小学校に多くの生徒を受け入れていただき、大規模校ではあるが、一人一人に支援が行き届いた環境で安心して「働く」ことと向き合える学習を可能としている。②進路学習において、近隣に存在する全ての高校から、「出前講座」と称し、高校教諭による授業を実施していただき、進路選択の一助としている。③近隣の全ての高校から先輩を招き、生徒の目線から見た高校生活についての話を聞くことによって、明るい希望をもった進路選択を大切にしている。							

学校の概要		学校名	佐久市 立 東中 学校			学校長	緑川 篤		児童生徒数	245 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		ボランティアのリストがある					
		市町村教委				自治会代表		○					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○		PTA代表					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		校長・教頭以外の学校職員		○					
名称		東中コミュニティ・スクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 人			
						主任児童委員、民生児童委員代表、公民館長、市少年センター育成推進委員、もと学校評議員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		令和4年 6月 3日(金) 令和5年 1月20日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		切磋琢磨(鍛え・磨き・高め・輝く自分) 「心豊かに人や地域と関わり合いながら たくましく生きていく生徒の育成」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 高度情報化社会に対応できる人材の育成 2 自ら考え、自分事として環境問題を考えられる人間 3 地域の一員としての自覚と、地域への愛着を持った生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
3 地域の実情や課題について		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						4		協働活動に参加したボランティアの人数					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								ボランティア登録者人数		0 人			
								参加者延べ人数		8 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山	
		人権教育		国際理解		託児						キャリア教育(職場体験を含む)	
													
		職場体験事前学習(9月16日)		ボッチャ体験(10月27日)		性教育(10月28日)							
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
職場体験を実施するにあたり、事前学習として上田情報ビジネス専門学校の比田井先生をお呼びして、何のために働くのか、幸せとは一体どういうことなのかについてご講演いただき、職業に就く上での基本的な考え方を深く学ぶ機会となった。その上で30事業所に分かれて10月27日・28日の職場体験を実施できた。													

学校の概要		学校名	佐久市 立 浅科中 学校			学校長	佐藤 元昭		児童生徒数	140 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	浅科小中コミュニティスクール推進委員会 中学校部		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	6 人	
			幼稚園理事 区長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)			5月19日(木) 9月27日(火) 2月13日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		区長 教頭			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		「志高錬成(しこうれんせい)」 志を高くもち、よりよい成果を得るために、ねばり強く、自分を鍛える									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○ 明るく豊かな生活を創り上げていく生徒 ○ 自分の考えを主体的に追究・発信する生徒 ○ 仲間の良さから学び、互いに高めあう生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	20 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○						参加者延べ人数	70 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○				
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○				
	人権教育	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		中山道宿場太鼓(令和4年9月24日)		放課後学習会(令和4年10月～)		福祉体験(令和4年10月12日)					
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
「中山道宿場太鼓」では、文化祭において、毎週の練習の成果として、迫力ある演奏を発表することができた。地域伝統の継承に支援をいただいている。 「放課後学習会」(3年生対象)を、毎週水曜日の放課後、定期的実施することができた。コミュニティスクールの学習ボランティアの方に来校いただき、生徒の学習意欲の向上とともに学習習慣の確立に一役かっていたい。 「福祉体験(1・3年)」では、地域の講師方をお招きし、ブラインドサッカー、グラウンドゴルフなど様々な体験学習をした。生徒たちにとって貴重な体験ができたことが、今後の「キャリア教育」につながっていくと感じている。											

<b>学校の概要</b>		学校名	佐久市 立 望月中 学校	学校長	山中 美佳	児童生徒数	175 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
				市町村教委		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
				自治会代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
				PTA代表				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員				
				○ 学校長・教頭以外の学校職員				
名称	望月中学校コミュニティスクール推進委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				
				NPO法人代表 交通安全協会部長 部活動外部コーチ				
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月7日(火)	2月16日(木)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
						地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
						望月教育プラットフォーム会長		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標		「自主・自律・愛他」 相手を意識しながら、自分の考えを持って、自ら動く生徒						
地域と共有された育てたい子どもの姿		「豊かな心を持ち(心力)、自ら学び続ける(知力)、考えを表現し実践する(行動力)生徒」						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 10 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		ふるさと学習(11月2日)		ビジネスマナー講座(7月21日)		予備登山(5月19日)		
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>								
○ ふるさと学習								
<p>・1年「ふるさと学習」は、○地域を知り、ふるさとを愛する心を育てる○地域の方々と連携・交流して学習を進める○自ら課題を持ち、協力しながら追求する を目標に実施しました。</p> <p>・始めに地域の歴史や名所などが記された「巻物」を作成して地域の魅力を再発見した生徒たちが、望月教育プラットフォームの竹内様から巻物をもとに地域の話聞いて、興味を持った事柄から追究課題を決めました。</p> <p>・それぞれの課題に対して調べ学習を行い、11月2日は実際に地域に出て調査活動を行いました。また、郷土料理に興味を持ったグループは、地域から講師を呼んで実際に調理する活動を行いました。午後は佐久市白田文化センターより上原先生を講師としてお呼びして、「望月」の由来など様々な話をさせていただきました。</p> <p>・生徒は学習を通して、ふるさとの理解を深め、郷土愛をより強くしている様子が見られました。</p>								

<b>学校の概要</b>		学校名	小諸市 立 小諸東中 学校	学校長	滝澤 政彦	児童生徒数	670 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
小諸東中学校コミュニティスクール運営委員会		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
		学校評議員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
		学習支援ボランティア					
		PTA会長					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 令和4年7月7日に実施</li> <li>・第2回 令和4年12月1日実施予定</li> <li>・第3回 令和5年2月21日実施予定</li> </ul>	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		互いに人格を尊重し、ねばり強い実践力を持ち、主体的に行動できる人間を育成する					
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の教育力や先人の知恵に学ぶ子どもたち 保護者や地域に見守られながら、ねばり強く学ぶ子どもたち					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○					
3 地域の実情や課題について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 10 人 参加者延べ人数 130 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		春の草刈り作業(5月28)		「学びの庭」(6月15日)		職業体験(10月13日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
<p>・平成30年度からスタートした「学びの庭」の取組を継続しています。学習支援ボランティアの皆さんに放課後來校いただき、数学と英語を中心に自主学習を進める生徒の支援をお願いしています。職員会議や学年会などの会合の時間を活用して、年間19回を計画しています。運営委員会では、育てたい生徒の姿をもとに、互いの考えを出し合い、生徒にとってどのような学習形態が有効であるかを検討しながら進めています。</p> <p>・2学年では、コロナ禍により地域に出向いての職場体験が実施できない代わりに、10月13日と27日に、地域の様々な業種の方に講師として来校いただき、職業体験を実施しました。全13講座のうち、2講座を選択して活動する中で、将来自分がどんな仕事に就くかをイメージしながら、主体的に学ぶ生徒の姿をたくさん見ることができました。「自分は何のために仕事をするのか」「自分は何のために生きるのか」など、今まで考えたことのない視点で自分を見つめることができました。</p>							

学校の概要		学校名	小諸市 立 芦原中 学校	学校長	鹿取 俊彦	児童生徒数	381 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
	市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表		PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	芦原中学校コミュニティ・スクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 元PTA会長(現学校応援団長)		地域コーディネーター	1 人	
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	・年間4回の会議を設定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会を1回中止している。 第1回・・・6月2日実施 第2回・・・中止 第3回・・・10月26日実施 第4回・・・1月27日実施予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭と学校応援団長がコーディネータとして活動をコーディネートしている。		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	知性豊かな生徒(知性) 心豊かで品性のある生徒(品性) 強靱な心身を持つ生徒(耐性)							
地域と共有された育てたい子どもの姿	自己肯定感を高くもち、地域の一員として、地域を知り、地域に学び、地域に貢献できる生徒							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	10 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		参加者延べ人数	40 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例								
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
【地域の方との梅の収穫】本校は、『耐雪梅花麗(雪に耐えて梅花麗)』の言葉にも代表される小諸市の中核の教育理念『梅花教育』を推進している。この梅の花になぞられる教育のもと、本校には約350本ほどの梅の木が栽培されている。学校前のバイパスは、「梅林道路」と呼ばれる梅の植樹をした道があり、春には梅の花が咲き誇り地域の方の心を和ませてくれている。本年度は、4月23日(土)、6月4日(土)に梅の木の消毒作業を学校応援団の方と一緒に、梅の品質を高めるよう努力した。本校では、毎年、6月にこの梅の収穫を行い、保護者や地域の方に収穫した梅を販売している。学校応援団長の柳澤さん、地域の吉沢さんのご協力のもと、梅の収穫期を見定め、本年度は6月20日に収穫を行うことを決定した。また時期の遅れて取れる南紅梅や令和紅梅の収穫を7月2日にボランティアの方に集まっていたいただき、収穫を行った。本校生徒は、この活動に誇りを持っており、梅を使った商品の開発や、販売を通して、地域貢献につなげていきたいと考えている。また、この活動を通して、「自分が地域や学校の役にたっている」という思いをもち「自己肯定感」が高まることに繋がったことが一番の成果だと考えている。								

<b>学校の概要</b>		学校名	軽井沢町 立 軽井沢中 学校		学校長	登内 淳		児童生徒数	439 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委	○	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表			PTA代表			ボランティアと学校の情報交換がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	軽井沢町学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月17日、9月6日、2月28日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		軽井沢町教育委員会生涯学習課生涯学習係長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	知力と体力にあふれ、心身ともにたくましい、心豊かな生徒の育成 ～すてきな軽井沢人になろう～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	「こぶし教育」(心豊かで、文化を育て継承し、自然を愛する子ども)										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	30	人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	参加者延べ人数			225	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育		国際理解	託児							
											
	総合的な学習の時間【地域探訪】			総合的な学習【職場体験学習】			総合的な学習【福祉体験学習】				
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
・コロナウイルス感染症予防を徹底しながら、地域の方を学校に招く学習や地域に向かう活動を昨年度以上に行うことができた。そこで学んだ内容を文化祭や発表会を通して、生徒のキャリア形成の一助にすることができた。今年度は、1学年で宿泊学習で訪れた白馬村と軽井沢町の自然、歴史、観光の違いや共通する部分を、地区グループごとに現地での調査活動も盛り込んだ学習活動を展開している。2学年では職場体験学習を2日間実施し、地域の企業や店舗に向き体験学習を行った。3学年は、SDGsも関わらせながら、暮らしやすい街づくりについて現地調査をし、これからの街づくりの在り方について考えをまとめ、提案した。											

学校の概要		学校名	御代田町 立 御代田中 学校			学校長	依田 俊一		児童生徒数	403 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		○	自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		○	PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称			御代田中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
						地域コーディネーター		1		人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月3日 12月9日 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員長			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		学校教育目標「美しく雄大な浅間山に学ぶ」 み…自ら学ぶ 皆で学ぶ【内に情熱 姿を整える】よ…よりよいものを追い求める よさを認め合う【姿を整え成長 気高さ】 た…多様さを認め合う 耐性【落ち着き 皆を包み込む】											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢を持ち、その実現に向け粘り強く取り組む生徒</li> <li>・互いのよさを認め合い、人格を尊重し合える生徒</li> <li>・地域の一員として、地域から信頼される生徒</li> </ul>											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		50 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5				参加者延べ人数		40 人			
<b>地域学校協働活動の概要</b>													
登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動			
清掃				ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援			
土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃			
人権教育				国際理解		託児				遠足・登山			
										休み時間			
										放課後教科・体験学習			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		思春期ふれあい講座(8月3日)				地域人材を講師に招いた授業(10月)				中学生模擬議会(1月実施予定)			
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
「中学生模擬議会」(写真、内容は昨年度のもの。今年度も同様の内容で1月に実施予定)													
(1)内容:3年生代表10名が議員として(議長役も生徒が担当)模擬議会(御代田町議会議場)にて、町長・行政担当者に対して、町政に対する願いや要望をこめた質問を行い、実際の担当者から答弁していただく。議員役以外の生徒は傍聴席にて傍聴。													
(2)誰と:議会当日はもちろん、企画検討、一般通告書作成補助、事前打合せ、リハーサルなど御代田町役場、御代田町議会の全面的協力をいただいた。													
(3)成果・効果:本物に限りなく近い議会を体験させていただいたことで、学習内容の定着、主権者意識の高まりが見られた。一昨年は10の提案の内、3案が実際に事業化された。町のことを自分事として考えることの重要性、郷土愛の醸成などが図られた。													

<b>学校の概要</b>		学校名	立科町 立 立科中 学校	学校長	山下 雅史	児童生徒数	148 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアと学校の情報交換会がある	
立科町立小・中学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		・小中学校評議員 ・学識経験者(社会教育委員)		地域コーディネーター		1 人	
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		・1回目は、7月5日(火)に実施。 ・2、3回目は、11月、2月に開催予定。	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		健康で粘り強い心と身体(強く) 深く確かな知識(明るく) 思いやりのある美しい心(温かく)					
地域と共有された育てたい子どもの姿		すべての子どもに「生きるちから」を育む(立科教育)					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 34 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 60 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○	
		清掃 ○		ICT ○		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携 ○	
		人権教育 ○		国際理解 ○		託児 ○	
		クラブ、部活動 ○		給食 ○		休み時間 ○	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃 ○		放課後教科・体験学習 ○	
		防災学習(避難訓練) ○		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		3学年「三校清掃」(5月30日)		1学年「地域巡り」(7月20日)		2学年「職業体験学習」(7月20・21日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○3学年「三校清掃(アカマツの植樹)」(5月30日) ・コロナ禍で2年間中止となっていた三校清掃(立科小、立科中、蓼科高校の各最上級生が参加し、縦割りのグループで一緒に清掃活動)であるが、本年度は、今までの縦割りを止め、学校ごと清掃範囲を割り振り実施した。アカマツの植樹に関しては代表者が一緒に作業を行った。 ・成果として、生徒の感想から「とても広く暑く、大変でした。でも清掃が終わった後はすごくきれいになり、達成感がありました」「松並木が県の天然記念物になっていることを知り、とても有意義な活動ができました」等充実した時間となった。作業時間を確保するために、移動を立科町のバスを活用させていただいた。植樹のアカマツの苗等は、町教育委員会にご準備いただき、ありがたかった。							

<b>学校の概要</b>		学校名	東御市 立 東部中 学校			学校長	大塚 明彦		児童生徒数	673 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	東部中学校学校応援団			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月7日 9月17日 2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	みがかれた知性 豊かな心 たくましい体										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの問題に気づき、自らの課題を持って学ぶ東中生</li> <li>・自ら挨拶をし、思いやりを持ち、人やもの・自然・郷土を大切に出来る東中生</li> <li>・健康・安全を心がけ、進んで体を鍛える東中生</li> </ul>										
						<b>地域と協働した活動状況</b>					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30 人
								参加者延べ人数		36 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃	ICT	○ 学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習	○ 地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	託児	○		○					
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
											
		わくわく美術DAY(7/20)		学習ボランティア(5/30)		SDGsの学習(5/20)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
1年生美術行事「わくわく美術DAY」の時間に東御市中央公園に向かい、自然や建物を見つめ直し、風景の表情、光、時間の流れなどを、絵具を使って風景画の制作を行った。なかなか職員だけでは目が行き届かない中、東信美術会3名 丸山晚霞記念館サポートスタッフ1名 丸山晚霞記念館館長さんらに指導者として参加していただいた。生徒たちへ絵画の師範をして頂いたり、見本を示して頂いたりして、具体的に細かい専門的な指導が出来、文化祭に素敵な作品を展示することが出来た。											

<b>学校の概要</b>	学校名	東御市立北御牧中学校	学校長	中野 裕顕	児童生徒数	117 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組みについて</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○ 協議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
	市町村教委	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	公民館代表	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				
	学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月25日、8月20日、1月18日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	保護者(PTA)		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	「求 健 正」 求…進んで考え行動し、真理を求める 健…健康で秀でた気力・体力を持つ 正…自他を思いやり、正しい判断ができる							
地域と共有された育てたい子どもの姿	少人数の良さを生かす教育 ・個に応じた学習指導 ・1人1人が生きる活動 ・地域に学び人に学ぶこと ・地域を支える人材の育成							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について	○						
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数				
				ボランティア登録者人数	5	人		
				参加者延べ人数	80	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	放課後学習会(5月25日から毎週水曜日)		「キャリア学習」(8月20日)		1年生福祉体験(9月29日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<p>全校が9講座に分かれて、講師の方の指導のもと、その職業の説明や体験活動を行いました。          新型コロナウイルス感染症の影響により、2年ぶりに実施することができました。          普段とは違い、外部の方が講師なので、生徒達ははじめ緊張気味でしたが、時間と共に緊張もほぐれ、夢中で体験活動を行いました。</p>								
<b>実施した講座(9講座)</b>								
1 菓子製造    2 天気予報士    3 獣医師 4 保育士    5 解剖師    6 広告業 7 健康運動指導士    8 学芸員    9 花火師								

学校の概要		学校名	上田市長和町中学校組合立依田窪南部中 学校		学校長	笠原 利幸		児童生徒数	191 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		○		自治会代表		○			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表				PTA代表		○			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員				学校長・教頭以外の学校職員		○			
名称	依田窪南部中学校コミュニティスクール(南中応援隊)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 人			
				地域住民				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		5月18日(中止) 11月9日(実施) 2月15日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標	知・徳・体の調和がとれ、自立した生徒の育成 知:かしこく 徳:やさしく 体:たくましく												
地域と共有された育てたい子どもの姿	主体的に課題を追究し、自己表現しながらお互いに高め合う南中生 人や物、郷土を大切に、互いに認め合い支え合いながら、豊かな人間関係を築く南中生 積極的に心身を鍛え、夢や願いの実現に向け挑戦する南中生												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○									
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 16 人 参加者延べ人数 25 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児								
学校・家庭・地域の協働した取組例								花菖蒲園 全校草取り(5月31日)		キャリア教育講演会(6月9日)		アントレ学習発表会(9月23日)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
本校の総合的な学習のまとめとして「地域未来プロジェクト」がある。「地域未来プロジェクト」とは、将来、依田窪の地域活性化に向けた取組を考える活動である。この学習は義務教育9年間を見据えた活動でもあり、学区内の3小学校と連携して取り組んでいる。この9年間の学習のまとめとして、3年生は「アントレプレナーシップ(起業家精神涵養)学習」を位置付けている。行政や地域住民の方から、依田窪南部地域の課題や取組などをお聞きした上で、地域の特性や特産物などの地域の宝を活かした様々な商品やイベントなどの企画を立案し、地域の未来像について考える学習に取り組んでいる。1学期に、構想してきた内容をこれまでかかわってくださってきた方に聞いていただき、アドバイスをいただく中間発表会を、今年度は感染症対策のためリモートで行った。地域に密着した具体的なアドバイスをいただき、構想がより明確に方向づけられ、文化祭での発表会へとつなげることができた。													

<b>学校の概要</b>		学校名	青木村 立 青木中 学校	学校長	後藤 真道	児童生徒数	108 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委 ○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表 ○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員 ○		学校長・教頭以外の学校職員 ○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	はつらつネットワーク		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 6 人		
			教務主任		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月25日、10月6日、11月9日、1月11日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		はつらつネットワーク事務局			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>									
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不撓不屈の意気をもった生徒「強い意志」</li> <li>・素直で素朴な生徒「思いやり」</li> <li>・故郷青木村を誇る生徒「郷土愛」</li> </ul>								
地域と共有された育てたい子どもの姿	心豊かでたくましい子どもの育成＝社会力(生きる力)を育てる＝ ・子どもと向き合う時間を確保し、人と人がつながる力と学力・体力を育て、一人ひとりを大切にする教育をめざす。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			4	協働活動に参加したボランティアの人数		12 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				参加者延べ人数		約200 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例		義民太鼓(7月～9月)		漢字道場採点・自主ゴテラ(通年)		避難訓練・防災講座		
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
青木村の伝統文化について学ぶことを通じて、青木村を愛する子どもの育成を進めている。中でも、義民太鼓を文化祭で発表しようということ、義民に係る歴史や先人の思いに触れながら義民太鼓を学び、青木村の伝統文化の素晴らしさを感じている。									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当学年 全校、希望者</li> <li>・活動場所 義民太鼓体験学習…青木村総合体育館武道館</li> <li>・指導者等 青木村義民太鼓保存会の皆様</li> <li>・学習の成果 義民の思いに触れ、自身と重ねながら義民太鼓体験学習を継続的に取り組み、その成果を文化祭にて披露した。</li> </ul>									

学校の概要		学校名	上田市 立 塩田中 学校	学校長	齋藤 毅	児童生徒数	524 名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○	ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	塩田中学校地域学校協働活動運営委員会(しおだっ子応援団)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表		地域コーディネーター	1 人					
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月25日(月) 12月16日(金) 2月24日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	1 充実した学習を積み上げる 2 たくましい心身を育てる 3 正しい道義心をのぼす 4 豊かな心情を培う											
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさに愛着と誇りを持ち、知・徳・体が調和し、社会的に自立した人間											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○							
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	87	人					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4		参加者延べ人数	240	人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例							環境整備支援ボランティア(通年)		学習ボランティア(通年)		1学年塩田めぐり(10/13)
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>&lt;環境整備支援ボランティア&gt; 環境整備支援では、学校花壇を中心にその時期に合わせた作業(土づくり・種まき・花壇づくり・除草作業など)を通年で行っている。生徒会の時間には、緑化委員会の生徒と共同で作業を行っている。平日の日中には、ボランティアの方々のみで活動していただくこともある。今年度は31名のボランティアの方が登録してくださり、コロナ禍の状況に応じて、計画的に活動していただいている。例年「年間活動計画」を作成しているが、昨年度(R3年度)は「のべ28回・参加人数のべ345名」の活動実績があった。12月にはボランティアの方々独自の活動として「クリスマスリースづくり」があり、毎年全ての教室に飾るクリスマスリースをプレゼントしていただいている。また、3月には3年生全員へ卒業祝いのパンジーをプレゼントしており、ボランティアの方々との協力を得て、2学期末から計画的に栽培活動を進めている。こうして、ボランティアの方々との共同作業を通して、生徒からは「いつも一緒に作業してくださりありがとうございます。」「気がつくと草がきれいに刈ってあり、ボランティアの方々に感謝したいです。」「いつまでもきれいな花に囲まれた学校にしていきたいです。」と、感謝や学びの声が聞かれ、ボランティアの方々の思いにふれる大変有意義な機会となっている。</p>												

学校の概要		学校名	上田市 立 第一中 学校			学校長	林 理恵		児童生徒数	510 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	第一中学校信州型コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				地域住民				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月25日 9月5日 2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標	体力・気力・知力を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成 ～自己肯定感を育み自信や誇りを持つために～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	①地域社会に飛び込んで、主体的に課題をもって取り組もうとする態度を育てる ②今までの自分の在り方を問い直し、まわりの人と共に生きる喜びを感じられるように活動できる資質を育成する ③自らの生き方を考え、進路の実現に向けた課題を把握し、計画的に課題を解決できる力を育てる										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 34 人 参加者延べ人数 171 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ	○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
2学年で行っている地域に出かけての職場体験学習が、コロナ禍でできない状況が続いているため、今年度も地域の方々の姿から学ぶ機会を設けた。長野経済研究所にご協力をいただき、8講座を開設し、また、地域コーディネーターに相談し、地域の方々の声をかけていただき、さらに7講座を加え、木工、板金、生花業、民芸、伝統芸能、接客業、救命救急法等、計15講座を開設することができた。学校としてお願いした講座の講師の皆さんとは、事前に担当職員と打合せをし、学校としての目的や講師の方々との思いを共有しながら、講座の内容を決定した。当日は、それぞれの講座で講師の方々から仕事についての説明を伺ったり、体験をしたりした。専門的な技に触れたり、歴史を感じたり、客のニーズに応えるためのアイデアを考えたりして、生徒にとっては本物にふれることができた時間となった。											

学校の概要		学校名	上田市 立 第二中 学校		学校長	酒井 秀樹		児童生徒数	293 名						
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委			自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			PTA代表			ボランティアと学校の情報交換会がある			
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○ 学校長・教頭以外の学校職員			○			ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		上田市立第二中学校学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 前学校評議員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		6月1日(中止) 11月7日(中止) 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域学校支援員					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>															
学校教育目標		明倫の心 建学の精神 敬愛 窮理 実践													
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の頑張りを受け止め合い、自分らしさを作り出す生徒</li> <li>・『問い』を立て、自分のことばで発し、話し合っで深める追究を楽しむ生徒</li> <li>・一人となって考え行動し、自分の生活に『明倫の心』を構築する生徒</li> </ul>													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○					
2 学校運営への必要な支援について		○		3 2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○					
3 地域の実情や課題について		○		4 3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)				○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		5 4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		0 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		6 4				参加者延べ人数		30 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
		人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例															
		キャリアウオークラリー(4月15日)				放課後学習教室(毎週月曜日)				二中フォーラム(9月2日)					
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
<p>基本的な学習内容の確実な習得や学習方法への助言、さらには発展的な学習内容について、個別の生徒の実態に合わせて支援していくために、今年度は6月から毎週月曜日の放課後16:30~17:30の1時間、上田高校生のボランティアによる放課後学習教室を実施している。</p> <p>地域コーディネーターの方にコーディネートをお願いし、効果的な支援のあり方について高校生との事前打合せや終了後の反省で助言をいただきながら高校生が主体的にかかわってくれている。全校で約40名の生徒が申し込んでおり、テスト後の答案でできなかったところを教わる姿や、苦手教科の学習方法や受験対策等を教わる姿が見られ、教え方もわかりやすいという声が寄せられている。</p> <p>週1回の放課後学習教室を学習のペースにしながら有効に活用している生徒の様子が見られる。</p>															

学校の概要		学校名	上田市 立 第三中 学校			学校長	城田 真裕		児童生徒数	366 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
名称		第三中学校 学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園園長</li> <li>・民生児童委員</li> <li>・市スポーツ推進委員</li> <li>・保護司</li> <li>・部活動保護者代表</li> <li>・PTA会</li> <li>・元PTA会長</li> <li>・公民館職員</li> </ul>						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月18日 10月26日 2月6日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援ボランティア					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		自主性を養う											
地域と共有された育てたい子どもの姿		自ら考え 自ら判断し 自ら行動できる生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 39 人 参加者延べ人数 120 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
		学校・家庭・地域の協働した取組例											
		新JIGAKU(毎週月曜日)				学習支援(夏休みの学習開放日)				避難訓練と防災学習(9月2日)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>今年度から、水曜日の放課後、希望者が学校に残って自主的に学習する「スイッチ」を始めた。「水曜の放課後に、地域の方といっしょに学習する時間」ということから、「スイッチ」と名付けた。地域の学習ボランティアの方が、学習を見てください。</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況から、6月8日(水)が初日であり、全学年合わせて30名もの生徒が自主的に学習をした。黙々と学習する教室と、互いに教え合いながら学習する教室の2部屋に分かれ、集中して取り組む姿が継続している。やる気スイッチが、やる気の継続スイッチへの高まりをめざしていく。</p>													

学校の概要		学校名	上田市 立 第四中 学校			学校長	宮澤 好一		児童生徒数	533 名														
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																								
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																		
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある																
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																
名称	上田市立第四中学校 学校運営協議会					[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民、高校・大学職員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人														
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人															
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		6月3日 10月14日 1月20日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)															
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事														
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																								
学校教育目標	自己を見つめ 友と協力して 逞しく生き抜く生徒																							
地域と共有された育てたい子どもの姿	「四中プライド～主人公として生きる～」を合い言葉に、自分の人生を自分の力で切り拓いていくために、主体的に「ひと・もの・こと」に関わる生徒																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																		
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○												
2	学校運営への必要な支援について					○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○												
3	地域の実情や課題について					○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○												
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 80 人												
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					○																		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間		○	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
	人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○				○	
学校・家庭・地域の協働した取組例																								
		「仕事を学ぼう」(7月6日)				職業体験学習(7月20日)				放課後自主学习(9月14日)														
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																								
【生徒が自らの課題を設定し、主体的に学ぶための場の設定としての毎週水曜日放課後の「四中アカデミー」の取組】																								
①学生ボランティアや地域の元教職員の方を講師に、自主学习への支援を行っている。ボランティアのコーディネーターは、地元の長野大学(教職課程推進室)や信州大学(信州大学教職支援センター地域連携プロジェクト)等に依頼している。また、そこでボランティアを務めた大学生が本校で教育実習を行う等、地域に開かれ、地域と学校が連携した教育課程の構築のための持続可能な体制づくりができています。																								
②上田市商工観光部地域雇用推進課にコーディネーターをお願いし、地元で働く方に、仕事についてのお話をいただき、生徒が今後の進路について主体的に考えるキャリア学習講座「仕事を学ぼう」を開催している。二学期までに「公務員」「和裁・着物」「プログラミング」に関わる方を講師として実施した。参加生徒は、自分の将来について具体的な道筋を知ることで、日頃の学習に対する関心や意欲を高める姿も見られている。																								

学校の概要		学校名	上田市 立 第五中 学校			学校長	畠山 正幸		児童生徒数	468 名								
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
			市町村教委		自治会代表		○			ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある				
			○			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	五中応援団「チーム鳳」			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター		1 人						
										地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)								
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		5月27日 実施済み 10月 7日 実施済み 3月 3日 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			公民館職員(公民館長・公民館主事)								
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			社会教育指導員									
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>																		
学校教育目標		人間性豊かで、主体的に問題を解決する生徒																
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心豊かな生徒</li> <li>・自ら考え実践する生徒</li> <li>・健康でたくましい生徒</li> </ul>																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況												
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○										
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○										
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○										
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人										
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		8 人										
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間					
	清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		○		国際理解		託児		○									
	学校・家庭・地域の協働した取組例		○						○									
						保育園児との共同花植作業(6月9日)		和装体験(1月に5回実施予定)		職員玄関 憩いスペースの花(毎週)								
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>																		
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
<b>【和装体験】</b> 2学年の家庭科の時間に、和装着の講師として上田地域で活動している3名の先生方をお招きして和装を体験する授業を行っている。日本の伝統的な衣服である和服の歴史や洋服と和服の違い(構造、行事服)等を知るとともに、実際に和服(浴衣)を着装することで和服の良さを体感する目的で、年に各学級1回(6年前より)浴衣の着付け体験を行っている。 歴史や伝統について学んだ後に着付けを体験した生徒たちは、「孫や曾孫まで着回すことができ、体型に応じて調節して着ることができる等、実際に着装してみると和服の良さを実感した。」等の感想を述べている。 この地域にお住まいの講師の先生から日本の伝統文化について学ぶことができる授業を生徒は楽しみにしており、学校としても大変ありがたい体験学習になっている。																		

<b>学校の概要</b>		学校名	上田市 立 第六中 学校	学校長	藤井 善章	児童生徒数	441 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	第六中学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
							地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月16日、2月14日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>								
学校教育目標	「敬 和 創」							
地域と共有された育てたい子どもの姿	人を敬い 人と和し 自らを創ることができる子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 5 人 参加者延べ人数 66 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
	学習支援ボランティア(通年)		民話語りの会(10/17,20)		四者会議(10/21)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>								
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<四者会議…10/21> ・本校をより良くするため、学校・生徒・保護者・地域の四者で協議をする場として、26年前から開催 ・コロナで令和2年度、3年度と2年連続で中止。今年度は新たに総合的な学習の時間の「ふるさとタイム」で学んだことを生徒が発表する場として設定。 ・各地区の公民館等を会場に、地域のみなさんへ、本校の生徒の様子を知っていただく、という内容で開催。 ・併せて、次年度以降の「四者会議の在り方」を討議した。 <成果・効果> ・学校へ地域の皆様をお招きできない状況が続く中、中学生が地域に出向き、学校の様子を伝えたことで、地域の方々はとても喜んでくださった。								

学校の概要		学校名	上田市 立 真田中 学校			学校長	青木 辰夫		児童生徒数	235 名	
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○			
名称		真田中学校CS学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 真田中学校同窓会長 真田商工会(統括経営支援員) 上田市福祉協議会真田地区センター(社会福祉士)		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月18日、7月25日、11月10日、1月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合に立場・役職を記入)		民生委員	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		『かりがね精神』 磨き合う知性 感じ合う心 鍛え合う身体 見つめ合う命									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら意欲的に学ぶ生徒</li> <li>・豊かな心を育む生徒</li> <li>・進んで身体を鍛える生徒</li> <li>・命を大切にする生徒</li> </ul>									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 135 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について											
<b>地域学校協働活動の概要</b>											
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		一人1プランターでサルビア栽培(前期)		「食と命」2年農業体験(前期)		放課後等個別学習支援(通年)					
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>一人1プランターでサルビア栽培 真田中学校の特徴的な取組の一つであるサルビア栽培に、今年度から立ち上がった学習支援ボランティアのみなさんに参加していただきました。</p> <p>プランターに植えるところから参加していただき、ボランティアのみなさんの都合のよいときに来て、生徒に助言していただいたり、サルビアの様子を見ていただいたりしました。ボランティアのみなさんとの交流を通じて、多くの生徒が地域の方の「我が真田町」への思いにふれることができました。</p> <p>また、夏休み中、リフレッシュウィーク期間を中心に、朝と夕方の水やり作業を学習支援ボランティアのみなさまが引き受けてくださったことは、職員の負担軽減につながりました。</p>											

学校の概要		学校名	上田市立菅平中学校		学校長	水上 淳一		児童生徒数	32 名			
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	菅平学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				区長 有識者 公民館長 長寿会代表 読み聞かせボランティア スキークラブ長 同窓会長 コーディネーター				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月24日(参集せず書面決議)、10月25日、2月28日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)				
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	「郷土を拓く大地の教育」めざす子どもの姿「協働して目の前の問題を解決していくことができる子ども(相手意識をもった自立した学習者)」											
地域と共有された育てたい子どもの姿	「ふるさと菅平に学び、郷土に生きる人材の育成」 地域との交流を通して、菅平ならではの本物体験・感動体験を味わいながら、各教科で身につけた資質・能力を活かして探求的に学ぶ児童生徒。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3	地域の実情や課題について					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		18 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					5		参加者延べ人数		50 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○		読み聞かせ	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○		給食	休み時間	
	清掃			ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育			国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
校長杯(6月18日)			ジャンプ台下草刈り(10月11日)			総合的な学習の時間(11月5日)						
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
本校では、総合的な学習の時間に「菅平のためにできること」と題し、環境美化、草刈り、動植物、菅平魅力発信、ミニ雑誌、イベント企画のそれぞれのチームに分かれ、それぞれが菅平のためにできることを考え取り組んだ。環境美化チームは、ごみ拾い活動、草刈りチームは、道路脇の草刈りや環境美化の立て看板づくり、動植物チームは、自然館の方や筑波大学山岳科学センターの方とともに菅平地区の動植物の現地調査、菅平魅力発信チームは、撮影した写真をSNSで発信し菅平の観光のPR、ミニ雑誌チームは、菅平のお店、名所を掲載したミニ雑誌「すがだいらさんぼ」の作成、イベント企画チームは、菅平地区で開催されたスカイランタンイベント、カレーフェスタに参加し、地元を盛り上げる企画をそれぞれ行った。チームごと地元菅平への感謝の気持ち、実践活動として取り組んだ。なかでも、イベント企画チームのカレーフェスタ参加では、地元産とうもろこしを使用したプリン作りを試行錯誤しながら生徒自身が作り、保健所の指導の下、無料で配布し好評を得た。生徒達は、来年も参加したいと意欲を示している。また、活動した内容を長野大学の前川先生の御協力を得て、『菅平まなびあひひろば』で情報発信も始めている。												

学校の概要		学校名	上田市 立 丸子中 学校	学校長	中村 弘文	児童生徒数	213 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○ 自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		PTA代表		○	
		○		PTA代表		○	
		○		PTA代表		○	
丸子中学校運営委員会		○		公民館代表		○	
		○		PTA代表		○	
		○		PTA代表		○	
		○		PTA代表		○	
名称		丸子中学校運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
				・丸子修学館高等学校長		地域コーディネーター 1 人	
				・学校が委嘱した運営委員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月16日 1月27日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						丸子地域教育事務所 社会教育指導員	
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標		みずから学ぶ ともに創る たくましく生きる					
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るいあいさつができるやさしい子ども</li> <li>・基礎基本となる学力をつけて自己肯定感を高め、自分に自信をもてる子ども</li> <li>・地域貢献活動や総合学習を通して自分の住む町に誇りをもつ子ども</li> </ul>					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 4 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 40 人	
地域学校協働活動の概要		学校・家庭・地域の協働した取組例		登下校の見守り		読み聞かせ	
				児童会、生徒会		クラブ、部活動	
				清掃		ICT	
				学習ボランティア		給食	
				土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	
				子ども食堂(こどもカフェ)との連携		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
				防災学習(避難訓練)		防災学習(避難訓練)	
				人権教育		国際理解	
				託児		託児	
				給食		給食	
				休み時間		休み時間	
				コロナウイルス対策の消毒・清掃		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
				遠足・登山		遠足・登山	
				放課後教科・体験学習		放課後教科・体験学習	
				キャリア教育(職場体験を含む)		キャリア教育(職場体験を含む)	
				生徒会広報活動(6/13)		生徒会広報活動(6/13)	
				地域貢献活動(6/13)		地域貢献活動(6/13)	
				3学年総合的な学習の時間(6/24)		3学年総合的な学習の時間(6/24)	
<b>代表的な協働した活動の取組例</b>							
<b>(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
3学年の総合的な学習の時間では生徒がグループを作り、地域のPR活動や地域のゴミ問題などについて取り組んだ。PR活動に取り組んだグループでは、PRの一環として学校周辺のきれいな景色を写真に撮り、カレンダーづくりをすることになった。							
6月から地元の写真館の店長さんに講師をお願いし、写真の撮り方を教えていただいた。講師の方には総合的な学習の時間に何度かご来校いただき、生徒にその場できれいな写真の撮り方や見栄えのする写真の撮り方について教えていただいた。時には校外へ出かけ、山や川や田園の風景などを撮影した。							
写真を撮る過程では、講師の方に教えていただいたことを個々に実践してみたり、撮影場所や構図を決めるのに地域の歴史などを調べたりする姿が見られた。そのような活動を通して地域の魅力を再発見した生徒もいた。また写真の撮り方や、カメラの使い方には興味関心を寄せる生徒が多く、カレンダーができあがると生徒たちは大変喜び、満足感を得た様子が伺えた。参観日に併せて行われた学習発表の際には地域の環境の美しさを再認識したことや、講師の方への感謝を述べる姿が見られた。							

学校の概要		学校名	上田市 立 丸子北中 学校		学校長	今田 利弘		児童生徒数	251 名				
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある			
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		丸子北中コミュニティスクール運営委員会 丸子北中コミュニティスクールサポーター会議		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 コミュニティスクール運営委員 市社会教育委員 主任児童委員 各種地域サークル代表(コスモス大学講師)				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月14日 2月1日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		コミュニティスクール運営委員			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>													
学校教育目標		1 自ら考え、進んで学習する生徒(自主) 2 思いやりのある、心豊かな生徒(友愛) 3 明るく健康で、粘り強い生徒(鍛錬)											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・学校と地域が協力して明るい町づくりと思いやりの心を養う。 ・協力できるあたたかなつながりのある町づくりを地域の方と共に考え実行できる。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について				○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について				○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 238 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について				○									
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		丸子コスモス大学(8月29日)				職場体験学習(7月22日)				学校環境整備(8月27日)			
		<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
今年で17年目となる丸子コスモス大学では、5学部、14学科を開設し、地域の方を講師にお迎えしての体験学習を行った。講座は次の通り。 [環境学部].....森林体験学科、花壇づくり学科 [ふれあい学部].....おやきづくり学科、バドミントン学科、卓球学科 [表現学部].....演劇学科、少林寺拳法学科 [伝統学部].....茶道学科、生け花学科、指編み学科、銅板工芸学科 [知的活動学部].....折り紙学科、絵手紙学科、将棋学科 生徒達が興味のある講座に分かれ、40人の講師の皆さんの指導を仰ぎながら活動した。自分なりに工夫をしながら、良い作品に仕上げようと集中して製作する姿や、文化祭での発表に向けて真剣に練習する姿が見られた。講師の方々は、限られた条件の中で、生徒達の満足感につながる活動内容の工夫や教材の準備などをしてくださり、その綿密さや実行力の素晴らしさは教師にとっても参考になることが多かった。													

学校の概要	学校名	長野県小諸養護	学校	学校長	宮下 直久	児童生徒数	232 名
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成		ボランティアのリストがある			
		市町村教委	自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	人
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)		回	今年度開催日(予定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>							
学校教育目標	あかるく すなおに たくましく						
地域と共有された育てたい子どもの姿							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について						
3	地域の実情や課題について			2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	人
						参加者延べ人数	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解	託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例			写真	写真		
	JR美里駅清掃(7月1日)		活動名(日付)	活動名(日付)			
<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
・高等部生徒によるJR美里駅の清掃(ボランティア)を行った。感染警戒レベルが下がり実施をしたが、コロナ禍でもあり、本校生徒のみの取り組みとした。日頃お世話になっている地域の駅舎を清掃することで、学校以外での活動の幅がもてたり、地域の方から声をかけていただいたりと、地域とのつながりをもつことができた。							

学校の概要	学校名	長野県上田養護		学校	学校長	鈴木 しのぶ		児童生徒数	234 名		
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
			市町村教委	自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人			
会議 開催数 (予定)		回	今年度 開催日 (予定)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)						
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>											
学校教育目標		力を合わせ 自ら取り組む 心温かい 児童生徒 ①「力を合わせ」・・・相手意識、友達関係、共同生活、集団生活、意思の疎通 等 ②「自ら取り組む」・・・興味・関心、目当て、見通し、自主性、主体性 等 ③「心温かい」・・・笑顔、明るさ、優しさ、素直さ、思いやり 等									
地域と共有され た育てたい子ど もの姿		①小学部:ひとと一緒に活動を楽しむ子、めあて見通しをもって、自分から取り組む子 ②中学部:自立的な生活を目指して自分の力を精一杯発揮し、意欲的に生活できる生徒 ③高等部:積極的に社会参加できる生徒、一人ひとりに応じた社会自立 ④訪問教育部:児童生徒の生命を尊重し、自立活動を中核にした支援と発達の援助 ⑤重度重複学級:ひととかわる力を大切にしながら、健康の保持・増進、身体諸機能の維持・向上を図った、主体的な学校生活									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。				
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	人	
							参加者延べ 人数			人	
地域学校 協働活 動の概 要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援		コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(こども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・ 地域の協働 した取組例		写真		写真		写真				
活動名(日付)		活動名(日付)		活動名(日付)							
<b>代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)</b>											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
本年度は新型コロナウイルス感染症予防のために、外部との連携や交流について中止し、活動を行っていない。また、現状の感染レベルでは、他の行事、活動の延期から、実施は難しい状態である。											